



Anchor

アンカー

INSIDE

ついに日本征服に
やってきたイエズス会教皇!! 3
教育グローバル協定、
気候変動と日曜休業令の関係 25

63号

2020年1月



聖書を信じるクリスチャンであるならば、世の終わり、キリストの再臨を信じているはずで、これこそ、私たちの「祝福に満ちた望み」です。それならば、アドベンチスト(再臨待望者)こそ希望に満ち満ち溢れる民であるはずで、

世の終わりはない。人間は限りなく進歩すると考える人々がいるかと思うと、人類滅亡という悲観主義者がいます。あるいはなるようになるかと思う者もいます。仏教信者は、56億7千万年後弥勒菩薩が下生すると信じています。

最近発表された調査によると、多くの人々は人類の滅亡についてあまり関心がないのだと言います。この論文は、オックスフォード大学の研究チームにより発表されており、10月21日付けで自然科学分野のオープンアクセス学術誌『Scientific Reports』に掲載されています。

アメリカとイギリスで2500人以上を対象に「人類滅亡に関する意識調査」として行われました。ここで使われた代表的な質問の1つが、次の3つに付いて最良から最悪までランク付けの評価を行ってもらうというものです。

1. 人類は滅亡しない
2. 世界人口の80%が絶滅する災害
3. 世界人口の100%が死滅する大惨事

The Psychology of Existential Risk: Moral Judgments about Human Extinction
<https://www.nature.com/articles/s41598-019-50145-9>

テレビのドキュメンタリーで池上彰と現代の若い哲学者、ユヴァル・ノア・ハラ(ホモ・デウスの著者)の対談を見ました。人間の知恵、技術は限りなく進歩する、「ホモ・デウス」-人間は神になり得る可能性があるということです。世の終わりなど全く念頭にないようです。(ホモは人間、デウスは神という意味)。

しかし、聖書は、はっきり世の終わり、キリストの再臨があることを明言しています。

「地を滅ぼす者どもを滅ぼされる時が来るのです(黙示録11:18)。かつてないほどの「大いなる患難」、災害の季節の後にキリストは再臨なさいます。そして、悪人もサタンも滅びるのは当然であると納得させる「千年期」の後に神は「万物更新」なさいます。

「大争闘は終わった。もはや罪はなく罪人もいない。全宇宙はきよくなった。調和と喜びのただ一つの脈拍が、広大な大宇宙に脈打つ。いっさいを創造されたおから、いのちと光と喜びとが、無限に広がっている空間に流れ出る。最も微細な原子から最大の世界に至るまで、万物は、生物も無生物も、かげりのない美しさと完全な喜びをもって、神は愛であると告げる」大争闘下467。

フランシスコ教皇の「ラオダート・シ」という回勅はあまりにも有名になってきています。

環境問題 温暖化現象、気候変動、自然災害の同時多発は世の終わりを告げるばかりでなく、全人類の永遠の運命を決定する世界的日曜休業令が近づいていることを告げています。

16才のグレッタ・トゥーンベリさんは国連で「結果とともに生きなければいけない若い世代はあなたたちを許さない」と強く訴えました。世界の若い青年たちが立ち上がっています。

国連総長アントニオ・グテーレスもカトリックであり、強かに気候変動でみんなが警鐘を鳴らすよう訴えています。

イエズス会フランシスコ教皇(法王)の訪日は、我々日本人にとってどんな重大な意味を持っているのでしょうか？
今こそ世界総会で歌われた「キリストは来たり給う、これぞ我が使命」を心から賛美しようではありませんか。

サンライズミニストリー代表 金城重博

ついに日本征服にやってきた イエズス会教皇!!



2019年11月23日

フランシスコ教皇 訪日 日本

財務大臣兼副総理兼金融担当大臣
フランシスコ麻生 (カトリック洗礼名)

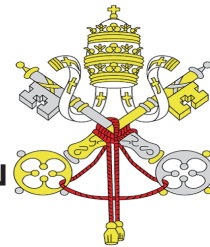


1549年8月15日

フランシスコ・ザビエル



3人の
「フランシスコ」

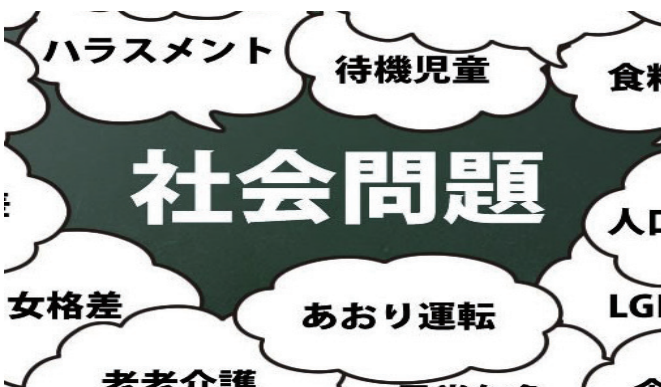


イエズス会の日本再来の意義

このイベントは我々日本にとってどんな重大な意味があるのだろうか、今日本は、国内で頭を悩ます問題が山積している。少子高齢化、いじめの問題、憲法改正の問題、核兵器、防衛問題、経済の不安、社会問題をまとめた図を見て頂きたい。

対外問題では、北朝鮮のミサイルによる恐怖、日韓関係の悪化、沖縄辺野古移設の問題……。

我々は、自分のこと、国益のことで騒いでいるが、今グローバル的に、世界的に、ドローン的に、どれほ



ど危機に直面しているか考えている人はどれくらいいるだろうか。

今度のイエズス会フランシスコ教皇が日本を訪れたことは日本をどこに向けていくか、それが我々個人の生活にどう関係するだろうかを考えてみたい。

日本は、国として大歓迎しているが、聖書的な見地から考えてみたい。

2019年11月23日仏教大国タイの大歓迎を受けたローマ教皇フランシスコ、東京へ到着した23日午後5時、羽田空港に到着した。この日は雨が降り、強い風が吹く中だったが、カトリック信徒でもある麻生太郎副総理兼財務相や日本の司教ら、またカトリック系学校の生徒らが出迎えた。24日に爆心地公園でメッセージを発信し、そして同日に広島の平和記念公園で「平和の巡礼者」「平和の使者」は、核兵器の使用は「犯罪」と強力なメッセージを発



信した。25日には東日本大震災の被害者と面会、その後天皇陛下と会見、そして東京ドームで大規模のミサ、そして安倍首相と会談、26日にはイエズス会の上智大学でスピーチして帰国という厳しい日程を無事にこなした。

ニュースとしては、2015年のアンカー 54号から何回か取り上げてきた。前号でも取り上げた。イエズス会ローマ教皇は2015年に日本側から訪日を招請されたとき、「素晴らしい、素晴らしい」と笑顔で繰り返し、実現を強く希望した。それがついに今年、2019年11月23日に日本に来られた！26日までの期間！24日にまず被爆地の長崎に行き、殉教者26聖人の追悼式の様子をメディアは報道した。

ローマ教皇の来日は、1981年2月の故ヨハネ・パウロ2世以来38年ぶりです。2回目である。

安倍首相と会談

安倍晋三首相とフランシスコ教皇が首相官邸で会談した。安倍首相は、2014年にバチカンで面会した時のお礼を伝え、「日本とバチカンは平和、核なき世界の実現、そして貧困の撲滅、人権、環境などを重視するパートナー。教皇の訪日を契機として、バチカンとの協力をさらに拡大していきたい」と話した。



安倍晋三首相は25日夜、フランシスコ・ローマ教皇と共に出席した各国外交団との集いで、同席した麻生太郎副総理兼財務相を「教皇と同じ『フランシスコ』の洗礼名を持つ人だ」と紹介した。麻生氏はキリスト教徒(カトリック)だが、出席者の多くは知らなかったようで、どよめきが起った。



首相は「皆さん、意外に思われたかと思う」と応じ、日本人とカトリック教会の歴史的つながりを語った。

た。<https://www.jiji.com/jc/article?k=2019112501045&g=pol>

面白いではないか。この度、三つの「フランシスコ」という名が日本に勢ぞろいした。

470年前に日本の植民地化に來日したイエズス会のフランシスコ・ザビエル、フランシスコ麻生、フランシスコ教皇。

しかし、今度の教皇の来日は、特別な意味がある。フランシスコ教皇は、バチカンの法王で初めてイエズス会から選ばれた異例の教皇である。2013年3月13日に第266代教皇に選出された。前々から日本を訪れることは彼の夢であったそうである。

なぜ日本にやってきたか？ 何のために？

今回の教皇来日のテーマは、「すべてのいのちを守るため～PROTECT ALL LIFE」であるという。なぜ、この言葉なのか。その背景にあるものは何なのか。



「今度の教皇の来日は、特別な意味がある」

フランシスコ教皇の訪日の舞台裏をカトリック京都司教 大塚喜直はこう語っている：

「教皇に選出されて以来、私たち司教は『ぜひ日本にお越しください』とお願いしてきましたし、秋篠宮さまをはじめ、安倍晋三総理や外務大臣がバチカンに行ったときには『必ず来てください』とお伝えしてきました。38年前に教皇ヨハネ・パウロ2世が来日した際には、政府はまったく関与していません。でも、今回は日本政府がお招きした形になっています。ですから、前回は天皇陛下ともご会見や首相との会談もありましたが、今回は意味合いがまったく違うのです」。

とはいっても、皇室外交とは無縁ではない。11月25日には、天皇陛下と面会する。

天皇陛下はロンドンに留学時代にバチカンを訪れている。その際の教皇は、ヨハネ・パウロ2世だった。1993年には上皇陛下と美智子さまがバチカンを訪問、2016年には秋篠宮ご夫妻が同じくバチカンを訪れている。振り返れば、昭和天皇も皇太子時代にバチカン

に出向いており、皇室とのゆかりは深いのだ。

なぜこの時期になったかという、天皇陛下の一連の即位の礼の儀式が終了する日程だったという関係者もいる。フランシスコ教皇と天皇陛下が面会できるスケジュールが、この時期だったというのだ。…

『**すべてのいのちを守る**』というフレーズそのものは、**教皇フランシスコが2015年に発表された『回勅ラウダート・シー**とともに暮らす家を大切に』から引いています。『ラウダート・シ』はイタリア語で、司牧的（一般の人を導く）回勅の**環境問題**に触れたものです。」 <https://gendai.ismedia.jp/articles/-/68661>

※ イエズス会のジョージタウン大学にあるCSIS(戦略国際問題研究所)で学んだ小泉新次郎が環境大臣となったのも意味があるのでは。

※ 「ラウダート・シ」はアッシジの聖フランシスコが死の床で歌ったといわれる『太陽の賛歌（あらゆる被造物の賛歌）』の中の言葉「ラウダート・シミ・シニョーレ」（私の主よ、あなたはたたえられますように）から取られている。

「この場所は、私たち人間が過ちを犯しうる存在であるということ、悲しみと恐れとともに意識させてくれます。近年、浦上教会で見いだされた被爆十字架とマリア像は、被爆なさったかたとそのご家族が生身の身体に受けられた筆舌に尽くしがたい苦しみを、あらためて思い起こさせてくれます。

人の心にあるもっとも深い望みの一つは、平和と安定への望みです。核兵器や大量破壊兵器を所有することは、この望みへの最良の答えではありません。それどころか、この望みをたえず試みにさらすことになるのです。

私たちの世界は、手に負えない分裂の中にあります。それは、恐怖と相互不信を土台とした偽りの確かさの上に平和と安全を築き、確かなものにしようという解決策です。人と人との関係をむしばみ、相互の対話を阻んでしまうのです」

核兵器は国家間の安全から私たちを守ってくれるのではなく、相互不信によって兵器の使用を制限する国際的な枠組みが崩壊する危険がある。そして、各国の指導者に対して、信頼関係を築き、核廃絶に協力するように呼びかけた。

さらに、世界中の人々、一人ひとりもすべてが無関心にならないでほしい。核廃絶に対して個人も責務があり必要とされているのだから、と訴えたのである。

日本の司教団としては、『この回勅は**環境問題**と言われているけれども、実は**社会問題を含めたすべての問題を網羅したものである**。教皇の趣旨にも合っている』と判断し、『すべてのいのちを守るため～**PROTECT ALL LIFE**』と英語でテーマを作り、バチカンに提案したのです。」 <https://gendai.ismedia.jp/articles/-/68661>

フランシスコ教皇は、仏教国であるタイで大歓迎を受けた。動画を見ると、タイのミサには6万人が集まった。国の美女たちの踊りが延々と続く。エンターテインメントを見て、教皇はどんな感じを持ったのか。日本の東京ドームでのミサとは雰囲気は全然違った。

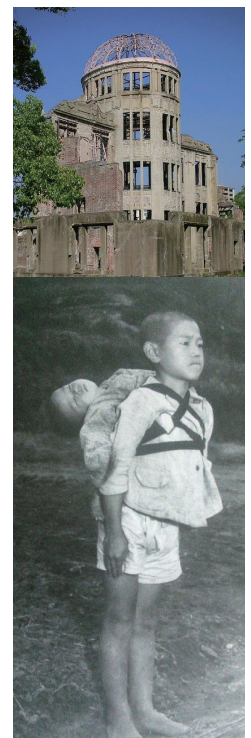


今度の教皇の来日に皇室外交も政府としても強い後押しをしてきた。また、教皇自身に強烈な来日の思いを与えたのは1枚の写真と言われている。それは「焼き場に立つ少年」。それは「千の言葉よりも多く語る」と配布。原爆で死んだ弟をおんぶしている少年。

4日間にわたった訪問では被爆地の長崎と広島を訪れてスピーチを行い、世界的に核軍縮が停滞する中、**核兵器は使うことだけでなく持つことも倫理に反する、途方もないテロ行為**とあらためて表明し、核兵器のない世界に向けて具体的な行動をとるよう呼びかけた。

また、若者との集いでは、**いじめ問題**を防ぐために大人や学校だけでなく自分たちから声をあげる勇気をもたなければならない、**環境問題、死刑廃止**にも触れるなど、さまざまなテーマで力強いメッセージを発信した。

しかし、**核抑止力**も許すべきではないと訴えた教皇に対し、**日本政府は、抑止は当面必要との立場を変えなかった**。



東京ドームでの5万人の巨大ミサ!!

長崎、広島では、「核廃絶」という強力なメッセージ



ジを与えた。被爆者のもとに歩みよって肩を抱き寄せたり、「平和の使者」としての崇敬を受けた。とうとう東京ドームに入場する様子を見て私の心は異様な感じに満たされた。

フランシスコ教皇は、ヨハネ・パウロ2世以上の、親しみやすい人柄、庶民的で貧しい、かわいそうな人々と寄り添う法王の印象を強烈に人々に与え続けている。若者との集会では冗談をまじえて参加者に問いかけたりし、20分にわたるパレードで何回か幼い子にキスシーンを印象づけた。教皇は、カトリックの腐敗、性的虐待の改革者として、LGBT、同性愛者を排除しない、また、富める国は貧しい国に富みを分配すべきと主張する教皇のイメージは、あの人気を高めた、ヨハネ・パウロ2世以上のパフォーマンスであった。優しい笑顔、質素で、きさくなパフォーマンスはイエスキリストを思わせるようなので、多くの人々の熱狂的な賞賛を浴び、世界の諸問題の解決をしてくれるのは、この教皇「平和の使者」だとほとんどの人々に思わせたであろう。東京ドームは熱気にあふれ、観衆の歓迎ぶりは「まるでロックスターのコンサートのようだ」と描写しているメディアもあった。



今回の教皇の訪日は特別な意味!

- 政府も皇室も教皇を招請した。
- 今度の教皇はイエズス会教皇であった。

今度のフランシスコ教皇の来日の意義を考えるために、バチカン、ローマ・カトリック、イエズス会と、日本関がかかっていた歴史についておさらいしてみよう。そうすれば、今、フランシスコ教皇が来日した真相を知ることができるであろう。

まず、バチカンという国について考えてみよう。

バチカン市国とは、日本人はあまりにも遠い国なので、政治ニュースとしてたまにしかメディアで報道されない。北朝鮮問題、日韓問題、ロシア、中国、そしてアメリカ大国問題には、関心を持つようになっていようであるが、バチカンについてはどれほどの日本人が関心を持っているだろうか。

聖書の預言研究者にとっては、世界最小の国であるが、最も関心のある国である。なぜなら、バチカンはローマ・カトリック教会の総本山。

面積は約0.44km²と、国際的な承認を受ける独立国としては世界最小で、東京ディズニーランド(約0.52km²)よりも小さく、中国北京の天安門広場(約0.40km²)と同じくらいである。しかし、主な国々と大使・公使の交換を行っている。2008年の時点で178か国と外交関係を有する。

世にも不思議な国ーバチカン:

「あの高慢なドゴールから忙しいキッシンジャーまで、又、公式にはまだ破門されているはずのあの共産主義者コスイギンから回教徒のファイサルまで、ローマを訪れてイタリア政界人に合わなくとも法王に会いに行くのだ。日本は特派員すらも知らない有様。日本がもし、西欧諸国や共産主義の国々や中南米やアジアやアフリカや中近東諸国など…これらの国々と仲良くうまくやりたいと思うならば、法王庁を徹底して利用すべきである。まず、正確で多量の情報を得ることができる」バチカンの秘密ー赤間剛、p 10。

ある記事に次のようなものがあった：

「ローマ法王訪日を政治目的に利用するな！世界のローマ・カトリック教会は目下、聖職者の性犯罪対策で苦慮している。オーストラリア、アイランド、ドイツ、オランダ、米国など世界の各国で数万件の性犯罪が発生してきた。フランシスコ法王の信頼を得て財務省長官を務め、バチカン・ナンバー3の地位を享受してきたオーストラリア出身のジョージ・ペル枢機卿（78）に対し、ビクトリア州高裁は8月、同枢機卿から提出された控訴要求を棄却した。それを受け、未成年者への性的虐待で今年3月に下った禁固6年の実刑判決は変わらず、ペル枢機卿は刑務所に再拘留されたばかりだ。

日本教会もやはり例外ではなかった。ローマ法王フランシスコが今年11月に訪日することになった段階で、このコラム欄でも数回予測していたことだが、日本のローマ・カトリック教会でも過去、聖職者による性犯罪が起きていた。

月刊誌「文藝春秋」3月号の中でルポ・ライターの広野真嗣氏が「“バチカンの悪夢”が日本でもあった！カトリック神父＜小児性的虐待＞を实名告発する」という記事を掲載している。児童養護施設「東京サレジオ学園」でトマス・マンハルド神父から繰り返し性的虐待を受けた被害者が答える内容は非常に生々しい（「日本教会にもあった聖職者『性犯罪』」2019年2月16日参考）。

日本の一部の報道によれば、ローマ法王の日本滞在中、死刑確定者と法王との面会が検討されているという。死刑制度に強く反対しているバチカンの意向を考え、世界に向かって死刑廃止を呼び掛けるチャンスというわけだが、非常に危険な試みだ。

ローマ法王の訪問は基本的には、訪問先の信仰の鼓舞だ。政治問題には関与しないことが原則となっている。世界に大きな影響力を持つローマ法王に死刑廃止を訴えてほしいという願いは“法王の政治利用”といわれても仕方がない」。 <http://agora-web.jp/archives/2041530.html>

しかし、バチカンについて、次のように評価されている：

「最小にして最大の国家」、「世界最小にして最強の国」、「国際政治の最大の仕掛け人」、「世界一流の金融機関」、「世界最大の財閥」、「金融大本山」、「世界最大の情報国家」、「世界最大の超多国籍宗教団体」、そしてビリー・グラハムは「世界最高の道徳的指導者」と評している。

「バチカン」の字義的な意味は、ヘブル語で、"#Vatican" literally means "Divining Serpent," and is derived from Vatis = Diviner and Can = Serpent. 「占う蛇」を意味し、ヴァティス = 占い師、カン = 蛇から派生しているようだ。 <https://yisraylhwkins.com/vatican-means-divining-serpent/>, <https://www.google.com/search?q=meaning+of+Vatican&oq=meaning+of+Vatican&aqs=chrome..69i57j0l7.7342j1j8&sourceid=chrome&ie=UTF-8>

黙示録 2:13 には、「サタンの座」のあるところと書いてある。

宗教改革者たちは、「反キリスト」「サタンの座」は法王教であると言ってはばからなかった。

ルター：「わたしはついに、法王が反キリストであって、彼の座は**サタン自身の座**であることを知った。」 D'Aubigne, History Of The Reformation Of The Sixteenth Century, Vol II, Book VI, Chapter IX、大争闘上 165

ニコラス・リドレーも同じことを言っている。 <https://revelationtimelinedecoded.com/the-antichrist-sea-beast-of-revelation-13-is-the-popes-of-the-roman-catholic-church/>

ローマ・カトリックは、ローマ帝国から、その座を受け継いだことについて聖書は次のように言っている：

「**龍は自分の力と位(座)**と大いなる**権威**とを、この獣に与えた」黙示録 13:2。龍は第一義的にはサタンであることを黙示録 12 章に明言している。第二義的には異教ローマである。

ローマ法王教=カトリックとは？

世界的宗教権力が政治権力と結合している国はどこにもない。イランは確かにハメイニ師という宗教権力がトップにあり、ロウハニ大統領がその下にある。しかし、イラン一国であって各国がそんな制度になっていない。カトリックにおいては、法王=教皇が全世界のトップである。

カトリックとは、「普遍的な、全世界の」の意味。ローマ・カトリックこそ全世界の宗教でなければならないと思っている。

かつて中世時代に全ヨーロッパを支配したように、全世界を支配することが彼らの狙いである。

ダニエル書と黙示録の預言を見るとそのことがはっきりわかる。ダニエル書には四つの世界帝国歴史の預言がある。2章では、世界帝国が端的にバビロン、ペルシャ、ギリシャ、ローマで終わっている。7章、8章ではローマが分裂したヨーロッパから出現する「小さい角」と表現されている。「小さい角」は水平に全世界に影響を及ぼすばかりでなく、垂直にいと高き天の神に挑戦していることが描かれている。これは明らかに「ローマ法王教」である。そして11～12章には「終わりの時に」「北の王」が全世界をつむじ風のように制覇していくことが描写されている。預言は、初歩的概要からだんだん詳細にわたって説明されている。黙示録13章、17章にはさらに詳しい預言がある。これらの確実な預言(2ペテロ1:19)は、我々は、まさに最後のローマ帝国を引き継いだローマ・カトリックの世界統一政府が樹立される時代に住んでいることを知ることができる。これらの預言の解き明かしはすばらしい、膨大な研究なのでこの記事で取り上げることはできないが、一句だけ引用しよう：

「そこで、全地の人々は驚きおそれて(賞賛)、その獣に従う」(黙示録13:3)と表現している。獣はローマから力と位と大いなる権威を受け継いだローマ・カトリックのことである。

ローマ・カトリックの目的は何か？

「ローマ教会の計画や運営方式には遠大なものがある。この教会は、再び世界を支配するために、また迫害を復活させるために、またプロテスタントが行ったすべてのことを無効にするために、激しい決定的な戦いの準備として、その感化力を広げ、その勢力を強めようと、あらゆる手段を用いている」大争闘下 321。

まとめ：

1. 再び世界を支配するため(中世時代、ヨーロッパであったことを全世界にやる)。
2. また迫害を復活させるため
3. プロテスタントが行ったすべてのことを無効にするため

バチカンの元首

バチカン市国とは、日本人はあまりにも遠い国なので、政治ニュースとしてたまにしかメディアで報道されない。北朝鮮問題、日韓問題、ロシア、中国、そしてアメリカ大国問題には、関心を持つようになっていくようであるが、バチカンについてはどれほどの日本人が関心を持っているだろうか。

聖書の預言を研究する者にとっては、世界最小の国であるが、最も関心のある国である。なぜなら、バチカンはローマ・カトリック教会の総本山であり、全世界支配を陰謀している「サタンの作り出した一大傑作」「サタンの代理者」であるからである(大争闘上 44)。バチカン市国を代表する時には「元首」という。

法王とは？

※ 日本ではフランシスコ法王来日から「教皇」と呼ぶことに統一された。

教皇＝法王とは、自国のトップであるばかりでなく、全世界のカトリック教会信者13億の絶対権力を持つトップである。

政教一致の国はバチカンだけである。

法王の絶対権力について、カトリック百科事典12巻「法王」の項、p268から引用してみたい：(日曜日か土曜日かー伊藤繁美著より)



- ・法王レオ13世「我々はこの地上において全能の神の位置を占めている」。
- ・ピオ11世「わたしは聖なる父であり、この地上における神を代表する者であり、キリストの代理者である。つまり、わたしは地上の神である」。
- ・「法王は教会法の下にあるものではない。法王が教会の為と思えば教会法を修正したり、廃棄する権限を働かすことができる」(カトリック百科事典12巻「法王」の項)
- ・「法王は非常に大きな権威を持ち、非常に高い地位

にあるので、普通の人間ではなく、あたかも神の如き方であり、神の代理者とも云うべき者なのである。」

- ・「法王は**最高権威を持つ最もすぐれた方**であって**最高の司教**と呼ばれている。」
- ・「彼は**聖なる君、至高き皇帝、王の王**のような方である。」
- ・「彼は**全世界（普遍的）教会の監督**である。」
- ・「法王は**最高権威を持つ最もすぐれた方**であって**最高の司教**と呼ばれている。」
- ・「法王は、**天上、地上、三界の王**として**三層の冠**をかぶっている。」
- ・「ローマ法王の**首位権及び権能は、決して天上、地上、地下に限定されず、天使たちよりも優れているので天使の上にもその権力は及んでいる。**」
- ・「天使たちが間違っ**て信仰をあやまり、また信仰に逆らうことを考えるとき**があるならば、**法王は彼等を審き破門**することができる。」
- ・彼の**権威、権力は非常に大きいので、法王はキリストと同じ法廷を持つことができる。**」
- ・「多くの博士たちの意見では、法王の行うことは何であれ、**神の行為と思われ**ると伝うのである。」
- ・「法王はあたかも地上にある神、キリストの忠実な僕たちの王、王の王であって、**全権を神の全能の命によって与えられ、地上の国々及び天上の国の統治をもまかせられている**」
- ・「法王の**権限と権力は非常に大きいので、聖なる律法さえも修正したり、解説したりすることができる**」

20世紀の世界大伝道者であったあのビリーグラハムは「世界最高の道徳的指導者」と称えた。

フランシスコ教皇は、Pope Francis: Servant of the poor「**貧しい者の僕**」とうたって世界中の人々を魅了している。歴代のカトリックの法王の傲慢さを捨てて、カトリックは変わったのだろうか。

「**ローマ教会は決して変わらないということがこの教会の自慢の種であることを忘れてはならない。**」グレゴリー七世やインノセント三世の主義は、今なおローマ・カトリック教の主義である。そして教会がもしひとたび**権力を持つならば、過去の場合と同じ勢力をもって、その主義を行動に移すであろう**」大争闘下 340。



「彼は、すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して立ち上がり、自ら神の宮に座して、自分は神だと宣言する」テサロニケ第二 2:4。

イエズス会とは：

ここで、イエズス会はいつ、なぜ生まれたのかを学んでみよう：

アンカー 43 号に「イエズス会の日本戦略」と題して記事を書いた。

イエズス会は、ローマ・カトリック教会の「精鋭部隊」である。（エリートを集めた部隊、超一流の意味）。

「**イエズス会を知らずに、歴史を知る事はできません**」 <https://ameblo.jp/bogih/entry-12394030654.html>

「**バチカンを知らずして国際政治はわからないのだ、と断言したい**」 赤間剛、序章 12

イエズス会は、イグナチオ・デ・ロヨラの指揮のもと、反プロテスタント改革を起こすために、法王パウロ 3 世から特別に任命されたということを知っておかなければならない。

「1534 年 8 月 15 日、イグナチオと六人の仲間はモンマルトルの丘に登り、サン・ドニ記念聖堂で唯一の司祭だったピエール・ファールのとてるミサにあずかって、神に自分の生涯をささげる誓いを立てた。世に言う「モンマルトルの誓い」である。彼らの立てた誓いは「今後、**七人はおなじグループとして活動し、エルサレムでの宣教と病院での奉仕を目標とする。あるいは教皇の望むところならどこでも赴く**」というものであった。これがイエズス会の始まりである。法王パウロ 3 世によって認可される」（Wikipedia より）。

その中に**フランシスコ・ザビエル**もいた。



戦慄すべきイエズス会の誓約文の一部を紹介したい：

「私はさらに進んで、たとえわが身が屍となっても、自分の意見や意志も、いかなる自分の考えも持つことなく、法王軍の上官から受ける命令には躊躇なく従うことを約束し、誓うものである。…さらに、機会があれば、あらゆる異端者、プロテスタント信者また自由主義者を全地の表から一掃し、根絶するようにとの指示に従い、秘密裏にでも公然とでも、残忍な戦争を仕掛けることを約束し、宣言する。私は老若男女、また身分を問わず容赦することはない。また私は、これらの忌まわしい異端者らの呪われるべき血筋を全滅させるためならば、かれらを絞首刑にし、火刑にし、打ちのめし、釜ゆでの刑に処し、生皮をはぎ、絞め殺し、生き埋めにすることをいとわず、男たちのはらわたや女どもの胎を引きちぎり、ガキどもの頭を壁に打ち付けることだってやってのける。そういったことを公然と実行できない場合は、相手の地位や名誉、威厳や権威にかかわらず、彼らの生活状態がどうであろうと、公的にでも私的にでも、法王の代理人、神聖な信仰の上位の修道士による指示ならばいつでも、密かに毒殺し、絞殺し、刺殺する覚悟である」(エドウィン・A・シャーマン著、地獄の技師の屍、またはローマの工兵と鋌夫、1833年、118-124 ページ)。

最も信ぴょう性のある本から、筆者(私)は何回も引用してきたが、この際、執拗に、約170年前に書かれた著名なE.G. ホワイトの各時代の犬争闘上293から引用したい(カトリック-イエズス会のしつこさに読者が目覚めるために、そして特に日本人が歴史の真実を忘れることがないために)：

各時代の犬争闘上293 E.G. ホワイト著より：

「プロテスタント主義は、全キリスト教国において、恐るべき敵に脅かされた。改革事業の最初の勝利は過ぎ、ローマはその全滅を期して新たな勢力を奮い起こした。このとき、法王教の全闘士中、最も残酷で無法

で強力なイエズス会が創設された。彼らは、世俗のきずなや人間関係から切り離され、人情も理性も良心もいっさいを無視して、彼らの会以外のどんな規則もきずなも認めず、ただ、その権力を伸張することだけを義務とした(付録参照)。

キリストの福音は、その信者たちに、危険を冒し、苦難に耐え、寒さ、飢え、労苦、貧困にもめげず、真理の旗をかかげ、拷問も投獄も火刑も恐れない力を与えてきた。この勢力に対抗するために、**イエズス会**は、その会員を狂信的にさせ、同様の危険に耐えるように、またあらゆる欺瞞の武器をもって真理の力に対抗するようさまざまな偽装もわけなくできた。彼らは、一生の間貧困と質素な生活を送ることを誓ったが、**その目的**とするところは、**富と権力の獲得**であり、**プロテスタント主義をくつがえし、法王至上権を復興すること**であった」。

上記の引用文からまとめてみると、

イエズス会の目的とするところは何であろうか？

1. 富との獲得
2. 権力の獲得
3. 法王至上権を復興すること

イエズス会の基本原則：

「彼らは、会の会員として活動するときは聖衣をまとい、牢獄や病院を訪ねて病人や貧者に奉仕し、世俗を捨てたことを公言し、よい働きをしながら巡回されたイエスの清い名を帯びていた。しかし、この潔白な外観のかげに、しばしば、極悪非道な目的が隠されていた。**目的は手段を正当化するというのが、会の基本原則**であった」。

イエズス会の戦略：

「この規定によって、虚偽、盗み、偽証、暗殺などは、教会のために役立つならば許されるだけでなく、賞賛すべきものであった。さまざまな偽装のもとに、イエズス会の会員たちは、**国政にまで手を伸ばし、国王の顧問の地位について、国家の政策をまとめた**。また、人々の様子を探るために、そのしもべとなった。彼らは、**王侯、貴族の子弟のための大学を設立し、一般の国民のための学校を建てた**。そして、プロテスタントの親の子供たちは、カトリックの儀式を守るように影響された。

ローマ・カトリックの礼拝の華麗な様子は、心を混

乱させ、想像力を眩惑し魅惑した。こうして子供たちは、彼らの父たちが苦難と血によって得た自由を売り渡してしまった。イエズス会は、ヨーロッパに急速にひろがった。そして、彼らの行ったところは、どこでも法王権(ローマ・カトリック)が勢力を回復した」。

イエズス会には2面性があることを覚えていないと、日本史を正しく読み取ることはできない。

1. 徹底した善行、奉仕
2. 「最も残酷で無法」「極悪非道な」やり方

イエズス会の戦略の強力な手段の一つは教育機関の設立である。

これら一つ一つのことについて調べれば調べるほど驚きを感じる。そのことについては大変な紙面を要するので、この記事では、日本に絞って考えたい。

イエズス会の偽装

イエズス会のことを“(Society of **Jesus**= イエスの共同体)”と言う。イエスのことを英語で **Jesus** という。全くイエスの教えと品性から離れているのに、なぜ、イグナチウス・ロヨラたちがイエズス会を創設したかをもう一度思い起こしてほしい。彼らは、イエス・キリストの福音がどのようにしてローマの迫害権力にも屈しない力であれば急速に広がっていったかを研究した。純粋なイエス (**Jesus**) の**初代キリスト教を真似る**ことをしたのである。

前にも記したように、世界中の人々を魅惑し、コントロールできる彼らの秘訣はどこにあるのだろうか。

「キリストの福音」を真似ることにある。大争闘上 293。

「真似た」「偽装」という言葉を使うと、今のフランシスコ教皇を見ている人々は、この記事を読んで「狂信的」「ヘイトスピーチ」だということかもしれない。ヘイトスピーチとは「憎悪にもとづく発言、極端な悪口や中傷、誹謗、差別」のことをいうのだが、もしそう思う人は、外観を見るのではなく、歴史の事実を見てほしい。そして聖書の預言と E.G. ホワイトの大争闘の本を読んで頂きたい。

「ローマ・カトリック教会の中に真のキリスト者た

ちがいることは**事実**である。この教会の幾千の者は、自分たちに与えられている最善の光に従って神に仕えている。彼らは、神の言葉を手に入れることが許されていない。だから彼らは、真理に気がつかないのである。彼らは、生きた、心からの奉仕と、単なる形式や儀式のくり返しとの間の、著しい相違に気づいたことがなかった。うわべだけの、満たされない信仰の中で教育されたこれらの人々を、神はやさしいあわれみをもってごらんになる。神は、彼らをとりまいて濃い暗黒に光が射し込むようにされる。神がイエスのうちにある真理を彼らに示されるので、**やがて多くの者が神の民とともに立つ**のである」。各時代の争闘下 321

「(黙 18:4) この聖句によれば、**多くの神の民がまだバビロンにいななければならない**。…」同 84 (1911年)。

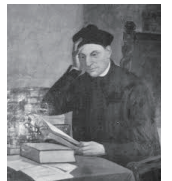
「**カトリック教徒たちの中にも良心的なクリスチャン**や、彼らの上に輝いている光の中を歩んでいる人々が**たくさんいる**。そして、神は彼らのために働かれるのである」9T 243 (1909年)。

E.G. ホワイトが次のように明言していることに留意してほしい：

「しかし**一つの制度としてのローマ・カトリック**は、この教会の歴史上のどの時代においてもそうであったように、今日でもキリストの福音と調和するものではない。プロテスタント教会は大なる暗黒の中にある」同 321。

大争闘の著者は、**イエズス会のラクンザ**について言及している：

「未開と聖職者たちの政略とのただ中
にあった南米において、**スペイン人でイエズス会のラクンザ**は、聖書を知って、キリストが速やかに来られるという真理を受け入れた。彼は、世に警告を発した
と思ったが、ローマの譴責を免れるために、改宗したユダヤ人をよそおって「ラビ・ベンエズラ」という偽名で、彼の見解を発表した。**ラクンザ**は18世紀の人であったが、1825年ごろに彼の本はロンドンに渡り、英訳された。この書物の発行は、英国においてすでに起こっていた再臨問題に関する興味を、深めることになった」同 60。



ラクンザ

今日も、イエズス会から脱退してその欺瞞を暴露した人がいる。アルバート・リベラである。もう亡き人になったが…。「この血の



アルバート・リベラ



マラカイ・マーチン

鍵 (The Keys of This Blood)、430 頁の
大著、マラカイ・マーチンも元イエズス
会であった。

過去に何回も引用したが、今回のフラ
ンシスコ教皇の訪日に関して再び引用し
て警告したい！

イエズス会の特色

高橋裕史の「イエズス会の世界戦略」から引用して
みよう：47-50

1. 第 1 に上長に対する服従、とりわけローマ教皇
への「絶対的服従義務」である。

これは地球的規模にわたる布教の完遂には、
イエズス会相互の厳密な精神的統一と共同意
識が不可欠であり、その結果、『より大いなる
神の栄光のために』は、どのような犠牲をも
顧みずに教皇の命令に服し、イエズス会の目的
達成のためには手段を選ばないこととなった。

※ <https://revelationtimelinedecoded.com/the-jesuit-hegelian-dialectic/>

https://www.wayoflife.org/database/hegelian_dialectics_devils_winning_tool.html

2. イエズス会の第 2 の特色は、その戦闘的な集団
意志に見られる。

これはイエズス会員らが自身を『キリスト
の精鋭兵士』と自負し、異教の地を自分たちが
闘う「戦場」と認識し、非キリスト教世界と抗
争すべくイエズス会という「部隊」に会員たち
が結合することを意味している。イエズス会
員にとって、キリストは『最高の隊長 Summo
Capitan』『最高の司令官 Summo Capitan
General』して位置づけられている。また『イ
エズス会 la Compania de Jesus』という公式
名称は『イエスの同志』(Society of **Jesus**)『イ
エスの戦闘部隊』という意味も内包していた。

3. イエズス会が有する第 3 の特色は、入会希望者
に厳格な選抜と訓練を課していることである。

入会志願者は健康、志操、知性、情熱などが
イエスの軍団の一員として堪えられうるものか
どうかを審査されたうえで、さらに長期にわた
る訓練がおこなわれる。その結果、イエズス会

員として相応しくないと判断された者は退会を
命じられるのである。

4. 第 4 の特色として、海外布教の重視と実践があ
る。

これはヨーロッパのキリスト教圏の範囲を超
えて国や民族などを差別することなく、およそ
世界人類の存在する地とあらば、どこにでも進
出して布教を行うことである。この海外布教活
動の論拠は、『新約聖書』の『マルコによる福音書』
第 16 章 15 節「汝ら全世界の中へ巡り行き全て
の被造物に福音を宣べ伝えよ」という言葉に
求められる。その一方で、大航海時代のカトリッ
ク宣教師たちを支配していた『終末的悲観論』も、
イエズス会による海外布教活動の原動力の 1 つ
として指摘しておかねばならない。これはキリ
スト教のおよんでいない世界は悪魔が支配して
いるので、大多数の人類は悪魔の支配下にあり、
悲惨な運命が人類を待ち受けている、ゆえにカ
トリックの宣教師は悪魔の支配下にある人類を
救済し、人類を『神の民』とすべく一切の被造
物の所有者たる神によって派遣されるという思
想である。

イエズス会は『「マルコによる福音書」や終
末的悲観論を背景に海外布教を積極的に展開し、
ポルトガル王室の支援も受けて、自らの勢力圏
を地球規模にわたって拡大することとなったの
である」。

5. 教育事業の重視。イエズス会が教育に力を傾
けたのは、布教をより効果的に実践し、実り
豊かな成果をあげるために必要不可欠だった
からである。イエズス会の教育法は『イエズ
ス会学事則 Ratio atque Institutio Studiorum
Societatis Jesu』に集約されている。

ロヨラやザビエルたちが学んでいた 16 世紀
のパリは全体で 60 の学院の所在地に分かれ、
神学、法律学、人文学および医学を中心学科と
する『「パリ方式」という教授法を採用していた。
ロヨラの学んだパリのモンテアグ学院はこのパ
リ方式を採用し、これを厳格に墨守していた。
ロヨラはこのパリ方式をイエズス会の修学制度
に充当して、ラテン語文法、弁証論、ギリシア・

ローマの古典学を神学の基礎学とし、彼はこれをもとにして『イエズス会学事則』を作成している。『イエズス会学事則』は1586年、1591年、1598年、1603年、1606年、1616年、1635年、1893年と相次いで印刷に付されて刊行され、同書に示されている修学方法は近代ヨーロッパ教育の根本理念とされていった。ヴァリニャーノが『東インド巡察記』でイエズス会員に布教地原語の学習を励行しているのも、こうしたイエズス会の教育重視の方針に依拠してのことなのである」。

「イエズス会の世界戦略」高橋裕史より:

「1549年のザビエルによる日本開教以降、日本イエズス会は着実に日本における地歩を確立していった。1570年までに3万人の信者を獲得し、九州から畿内までの西日本各地に40もの教会をたてた。ヴァリニャーノが来日した1579年までに信者は10万人となっていた。在日イエズス会員の人数も、1565年に12人だったのが、1579年に55人、秀吉による宣教師追放令が發布された1587年には111人となっていた」。

カトリックには、イエズス会に先行する他のヨーロッパの著名な修道会があり、クリュニー会、フランシスコ会、ドミニコ会が中世に創立されている。1534年に創立された修道会(イエズス会)は、その中で最も強力な修道会である。

ロヨラの指導の下に7名で出発したが、40年ほどの間に500名に膨らんだ。

ロヨラは言った:

「私の意図するところは、異教の地をことごとく征服することである」 イエズス会の世界戦略、高橋裕史、p 10。

イエズス会の目的達成のためには手段を選ばない。

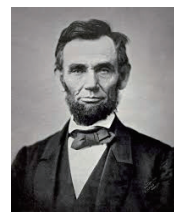
詳しくはアンカー45号参照。

少しだけ挙げておく:

・アブラハム・リンカーン:

イエズス会によって暗殺された。南北戦争について:

「私は、イエズス会が再び現われることを望まない。…地上と地獄において呪いに値する人々の集団があるとすれば、それは、ロヨラの組織である」。「内戦[すなわち、1861-1865年の南北戦争]は、決してイエズス会の邪悪な関与なしには起こり得なかったであろう」。



・合衆国第2代大統領ジョン・アダムズ:

「イルミナティの起源は、アランブラドスである。だから、フリーメイソン・イルミナティをフロントとして活動するイエズス会の陰謀は、グノーシスの陰謀。グノーシスの起源は、エデンの園において、人間の知恵によって救いを達成しようとするアダムとエバがつむいで腰に巻いた「いちじくの葉」。



・サミュエル・モールズ(1791-1872、電信機の発明者:

「イエズス会は、…メイソンのような秘密結社で、さらに反乱的で恐ろしく、何千倍も危険である」。「米合衆国の自由に対する 外来の陰謀の著者」



・ナポレオン・ボナパルト

は、次のように述べた:

「イエズス会は軍事組織であって、宗教団体ではない。その最高位にあるのは、単なる修道院長ではなく、軍隊の大將である。そしてこの組織の目的は、権力の掌握である。つまり、専制的な権力を行使することである。それは絶対的権力、普遍的権力、ひとりの人間の思いのままに世界を支配する権力である。イエズス会主義は、専制政治のもっとも絶対的なものであり、同時に虐待を最大規模に行う。……」



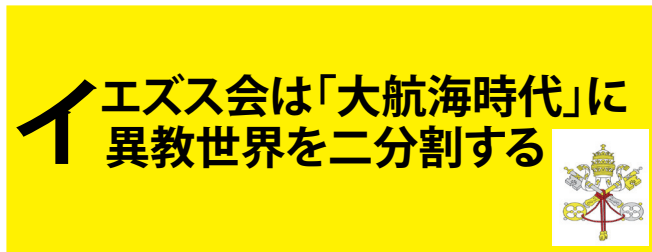
イエズス会の大將は、自らを支配者、君主を超える君主であると主張する。自分たちが認められるところ

ではどこでも、イエズス会はどんな手を使ってでも首位に立とうとする。彼らの社会はもともと独裁的であり、それゆえに、それはあらゆる立てられた権威と融和しない敵である。すべての行為、すべての犯罪は、どんなに極悪非道なものでも、イエズス会の利益のためになされたもの、または大将の命令によるものであるならば、賞賛に値する働きなのである」(モントロン将軍、聖ヘレナでのナポレオン捕囚の記念、62、174 ページ)。

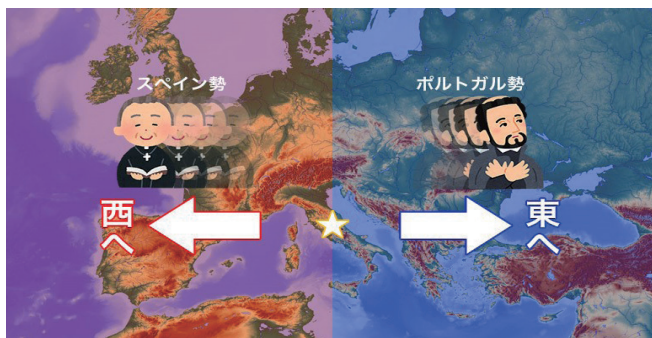
こう言っている人もいる：

「だから、徳川幕府が、イエズス会を追い出したのは賢い選択だった。歴史家は、イエズス会が何者であるかを考慮せずにキリスト教と同一視しているので本質が見えないのだ。 <https://www.dr-luke.com/diarypro/archives/3514.html>

世界の革命、戦争を起こしているのはイエズス会であることに興味のある方は、カトリックからセブンスデー・アドベンチストに改宗した、生物学者、ウォルター・ファイトの YouTube 215 を見ていただきたい。



ポルトガルとスペインは完全にカトリック国であり、世界を二つにわけて制覇に向かう。羅針盤と航海術、造船技術と地理学の発達は人類の海外への進出を飛躍的に促進させることになる。スペインは西の方に、ポルトガルは東の方に分割することによって異教世界を征服するという大事業にローマ教皇の許可のもとにイエズス会は携わった。そして次々に植民地として領有し、支配することが両国間で認められた。



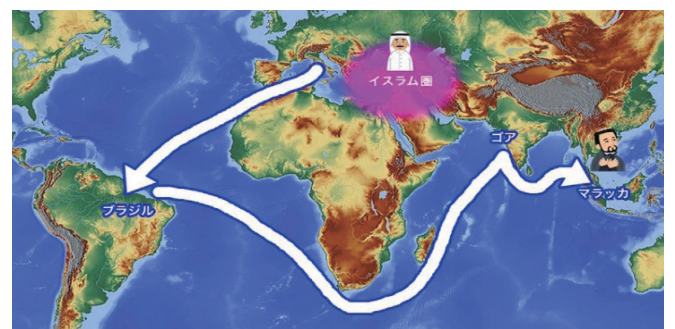
スペインはヨーロッパから西へ向うと、まず南米大陸に到着した。そしてインカ文明や他の文明を武力で制圧し、金銀を本国に送った。そうやって植民地化していったから、南米大陸のほとんどの国でスペイン語が公用語として使われている。



一方ポルトガルは東へ向かったのはいいものの、ヨーロッパの東はバリバリのイスラム圏が立ちだかっていた。だからそもそも入ることができなかった。だからそこを避けて、アフリカ大陸に沿って南に下りていく必要があった。その旅の道中、ついでに立ち寄ったのがブラジルだった。だからブラジルだけはポルトガル語になった。



そしてアフリカの喜望峰をまわり、航海を続け、とうとうザビエルを乗せたポルトガル船はインドのゴアに到着する。さらに東南アジアのマラッカに進み、そこで偶然、ザビエルはヤジロウという日本人と出会うことになる。



ザビエルは、彼から日本という国の存在を聞く。

国の規模を考えるとイエズス会が最終目的地としていたのは間違いなく中国だろうけど、**その途中に高い文化レベルを持った日本という国があるなら寄って行くか、という事になった**。そしてザビエルは長崎の港にやってきた。

日本はマルコ・ポーロの「東方見聞録」によって「**黄金の島**」**ジパング**としてヨーロッパに知られていた。

「カトリックの日本戦略」

赤間剛は、こう言っている：

「インテリ階級を通して占領する」「**上層部のエリートをつかむこと**」である。日本のエリート層にカトリックの信者が多いのだ」バチカンの世界支配陰謀、p 114。

高橋裕史が、イエズス会の日本戦略の一つに次のような興味深いことが書いてある：

「**日本人は彼らの領主〔の意向〕に大いに左右される**ので、領主からの好意と援助がなければ、キリスト教徒たちが〔その信仰を〕保持され進歩することも、**改宗**を広めることもできない。したがって上長たちは〔我々に〕好意をもった領主を抱えねばならない。日本の習慣に応じて（日本では、**まず何がしかの物を与えずには、何事もできない**）、何がしかの贈り物を与えて領主たちの必要としているところを援助することほど彼らを大いに魅するものはない。領主たちはだれしも利益を求めているので、我々の能力が許すならば、呈せられる必要と機会に応じて彼らに時宜良く気前の良さをを用いる必要がある。その目的はキリスト教界の発展と、彼らの領内にいるパードレ（司祭、神父）たちを援助してもらおうようにするか、あるいは少なくとも妨害や邪魔をしてもらわないようにするためでもある。…

では、ヴァリニャーノが記している『何がしかの物』とは具体的に何であったのか。まず思い付くのが、**ナウ船のもたらす硝石、火器、中国産生糸（きいと）に代表される国内「非自給物資」**である。…

日本人は、自分の主人には非常に従順なので、主人がそうするように命じたり、あるいはそれが主人の意志であることを理解したりすると容易に改宗する。…

異教徒領主はナウ船のもたらす富による富裕化を望んでいる→それには領内へのナウ船の誘致が不可欠なる→ナウ船を誘致するには布教を許可するか、自ら

と領民が改宗するか、どちらかを選択する→領民は領主の意思に従うので領主が改宗すれば領民も改宗することになる→こうして日本人集団改宗が期待できる」とヴァリニャーノの戦略を引用している。

※ ナウ船とは、ポルトガル、スペインからの貿易船

なぜこの時にフランシスコ教皇の訪日か？「時は満ちた」

- ①皇室の準備ができていた。
- ②カトリックの教育施設で教育されてきた人々が全国に網を張っていた。
- ③政府も準備ができていた。核兵器に脅かされている、多発する自然災害による被害。
- ④被爆者たちの平和への希求
- ⑤日本カトリック中央協議会の長年の訴え

皇室が準備できていた！

二人のお妃を皇室に送り込んだカトリック教会 上皇后 美智子（第125代天皇・明仁の皇后）



父正田 英三郎は日清製粉グループ会長で日清製粉会長、日清製粉グループの創業者である。聖心女子大出身ということもあり）カトリック。カトリックの名門正田家出身。

歴代侍従長の多くはクリスチャンだそう。現職女官長井上和子氏など皇室職員の大部分がクリスチャンであると言われている。

上皇后 美智子妃「ワタクシもお会いしたかった…」

「今回の来日を受けての美智子さまのご様子ですが、とにかく歓喜という言葉に尽きます。非常にお喜びになり、テレビ報道をご覧になり『ワタクシもお会いしたかった…』と涙を流されています。やはり未だ信仰心を捨てておられないのかもしれない」（上皇職関係者）

平成の時代は「クリスチャン＝美智子さま」という噂が立たぬように腐心してこられた美智子さま。お心の内をひた隠しにした30年の在位期間を経て、令和

となりようやくご自身の夢がかなったと、感無量のお気持ちでおられるのかもしれない。<https://kikunomon.news/article/22163#i-2>

皇室とキリスト教

https://blog.goo.ne.jp/khosogoo_2005/e/516e59b12a4b75c5a8c758c64c789eb1 参照。

細川一彦



「日本の皇室は、神道の祭儀を行うとともに、古代から外来の宗教すなわち道教、仏教等を取り入れている。神道を中心・根本としつつ、他の宗教と対立するのではなく、その良いところは取り入れる

という姿勢である。仏教の摂取・定着・発展は、皇室なくしては考えられない。キリスト教については、江戸時代に徳川幕府が禁止したので皇室に入ることはなかった。明治維新後、キリスト教の禁教が解かれると、皇室はキリスト教に対しても、排斥排除することなく、関心と理解を示してきた。



皇室は、明治以降、わが国は欧米からさまざまなことを学びながら近代化してきた過程で、キリスト教を西洋文明の一つの文化要素として受け入れてきた。たとえば、クリスマスにプレゼントを贈る習慣は、日露戦争のころにすでに皇室で行われていた。皇族は、外国の王族や要人と親交を持たれる立場から、こうした習慣を柔軟に取り入れたものだろう。昭和天皇は、定期的に聖書の講義を受けておられた。国際的な教養としてキリスト教に関する知識を身に付けておられたと推察される。

敗戦後、上皇が少年だった時、4年間、クェーカー教徒のエリザベス・バヴァイニング夫人が家庭教師を務めた。彼女を明仁皇太子（当時）の家庭教師に推薦したのは、GHQのボナー・フェラーズ准将だった。

フェラーズは、同じキリスト教徒として親交のあつ

た恵泉女学院の河井道から日本人の天皇に対する心情を聴いて天皇の重要性を知り、マッカーサーに意見書を出し、天皇が戦犯として処刑されないように働きかけた。1971年（昭和46）年、日本政府はフェラーズに対して、勲二等瑞宝章を贈っている。叙勲の申請書には「連合国軍総司令部における唯一の親日将校として天皇陛下を戦犯より救出したる大恩人」と書かれていた。

フェラーズが、皇太子（当時）にアメリカ人女性の家庭教師をつけるようにしたのは、それによって天皇に対する欧米の世論を和らげることが狙いだった。フェラーズとヴァイニング夫人は、ともにクェーカー教徒だった。夫人は優れた児童文学者でもあった。家庭教師に選ばれたヴァイニング夫人は来日して、皇太子と弟君の義宮らに英語教育などを施した。家庭教師の役目を終えて帰国した後、ヴァイニング夫人は1952年に『皇太子の窓』を著した。同書はアメリカでベストセラーとなり、アメリカ人の皇室に対する見方を変えることに大きな役割を果たした。

上皇は、1959年（昭和34年）、正田美智子様と結婚された。現上皇后は民間人として初めて皇室に入られた。カトリックの名家である正田家で育ち、ミッション・スクールである聖心女学院のご出身である。ただし、洗礼は受けていないとされている。民間人、しかもキリスト教徒と思われる女性が、皇室に入ることは、日本の伝統を尊重する有識者の間で懸念の声が上がった。

ご成婚後、皇族の一人がキリスト教に興味を持ったのは皇太子妃（現上皇后）の影響と聞いた昭和天皇が、皇太子妃に「皇室においてキリスト教の話はしないように」と叱責したという噂話を、当時の雑誌が書き立てた。平成28年から刊行されている『昭和天皇実録』は、このことに触れ、昭和天皇は「事実でないし、心に思ったことさえなかった」と伝えるよう側近に命じたと記している。

皇后 雅子 学歴



カトリック系の名門、田園調布雙葉小学校、中学校、高校（サン・モール修道会のミッションスクール）卒業後、ボストン市郊外のベルモント市にあるマサチューセッツ州立ベルモント・ハイスクールへ11年生（日本の高校2年生に相当）として転入学し2年間通学した。

雅子皇后は、妹たちがカトリックの洗礼を受けている、また、三笠宮妃信子様は、カトリックの名家・麻生家の出で、麻生太郎元総理の妹である（麻生太郎現

副総理は、洗礼名がフランシスコ)。

皇嗣秋篠宮の長女・眞子様は、国際基督教大学 (ICU) に進学された。次女・佳子様は学習院大学を辞めて ICU に進学された。ただし、同学でキリスト教に改宗する学生はごく僅かとされる。皇室関係の職員には、キリスト教徒が多いことが注目される。昭和天皇の初代の侍従長・珍田伯爵は、元外務次官でメソヂスト派の牧師だった。その後の歴代侍従長もキリスト教徒が多いと言われる。たとえば、渡邊元侍従長は聖公会だった。川島元侍従長はカトリックで、同じくカトリックで日本初の国連難民高等弁務官を務めた緒方貞子といとこ同士だった。

今上天皇と皇嗣秋篠宮の養育係だった浜尾侍従はカトリック教徒であり、彼の弟・浜尾伺郎は枢機卿という高位聖職者だった。女官長にもキリスト教徒が多いとされる。歴代の宮内庁長官では、田島、宇佐美等がカトリック教徒だった。また宮内庁の職員にはカトリックが多いと伝えられる。

このように日本の皇室はキリスト教と浅からぬ関係を持っている。だが、歴代の天皇皇后及び皇族は、皇室の伝統である神道を奉じ、また国家的な意義のある神道の祭儀を司っておられる。歴史的に仏教が先例にあるように、神道を根本・中心としながら、外来の宗教も取り入れて調和するという日本独特の文化を、皇室は堅持しているのである。もし万が一、木で言えば幹である神道から離れて、枝であるキリスト教に帰依するような皇族が出たならば、本末転倒ということになる。

皇室において、神道がキリスト教を包摂し、指導するものとなるか、逆にキリスト教が神道の中核部を溶解させることになるか。このことは、日本と人類の将来にとって、重要な事柄である」。

※ 聖書的には、後者、キリスト教(カトリック)が神道の中核部を溶解させることになろう。カトリック教会の日曜礼拝と神道の天照大御神は同じ太陽礼拝である。日曜日は「カトリックの権威のしるし」であるからには、全世界的日曜礼拝で一致することになるということが黙示録 13 章の預言からわかる。

イエズス会の教育機関で育てられた日本のブレンたちが準備されてきた。

ザビエルの書簡に見る－日本人観

3-9. 書簡第 96-41 : 1552 年 1 月 29 日 (コーチン)

「日本の人々は慎み深く、また才能があり、知識欲が旺盛で、道理に従い、またその他さまざまな優れた

資質がありますから、彼らの中で大きな成果を挙げられないことは「絶対に」ありません。ですから主なる神において日本での大きな成果を期待しています。数々の労苦は光彩を放ち、またその光が永遠に輝き続けますように。」

1-1. 書簡第 59-15 : 1548 年 1 月 20 日 (コーチン)

「このマラッカの町にいた時、私が大変信頼しているポルトガル商人たちが、重大な情報をもたらしました。それは、つい最近発見された日本と呼ぶたいへん大きな島についてのことです。彼らの考えでは、その島で私たちの信仰を広めれば、日本人はインドの異教徒には見られないほど旺盛な知識欲があるので、インドのどの地域よりも、ずっと良い成果が挙がるだろうとのことです。」 http://www.xavier.jp/xavier/xavier_remark.html

「日本に対する印象は彼が同僚宣教師としてイエズス会の総長に送った書簡に詳しく現れている。

フランシスコ＝ザビエルは 2 年ほど在日するが、この後もルイス・フロイスなどの宣教師が相次いで来日して、我が国に教会堂である南蛮寺や宣教師の養成学校や神学校を次々と建てた。

「世界最大の教育機関運営組織 (在學生は全世界で約 290 万人) でもある キリスト教のカトリック修道会イエズス会 が開設し、現在は学校法人 上智学院 が経営する大学である。 日本初のカトリック教会系大学 である。 中部地方 のカトリック・ミッション校である 南山大学 と姉妹関係があるほか、 米国のジョージタウン大学 や フォーダム大学 など世界各国のイエズス会系校と提携関係にある。



上智大学の起源は、1549 年 (天文 18 年)、カトリック教会イエズス会の 宣教師 であった フランシスコ・ザビエル が、日本人の旺盛な知的好奇心や高い道徳性、誠実性に感銘を受け『日本のミヤコ (都) に大学を』と日本での 高等教育機関 開設を構想したことにある。しかし、ザビエルの志は 禁教令 により叶わず、改めて 1905 年 (明治 38 年) に ローマ教皇ピウス 10 世 が、日本での高等教育機関設立をイエズス会に託し、ウィリアム・オコンネル司教 を親善大使として 明治天皇宛に親書を託し派遣。オコンネル司教が 東京市長、帝国大学総長、桂太郎 首相と精力的に会談を重ねた結果、1913 年 (大正 2 年) 上智大学



が設立された」Wikipedia 参照。

「ザビエルは日本人の伶俐(頭がよく、りこうなこと)な頭脳と善良な特質に感心し、「日本のミヤコに大学を建てたい」と**高等教育機関の開設**を構想。だが禁教令でかなわず、その遺志が実現したのは1913年のことだ。今年がザビエル来日から470年目で、今年7月末には**イエズス会総長アルトゥロ・ソーサ神父が来日**。 <https://www.worldtimes.co.jp/column/updraft/99185.html>

E.G. ホワイトが170年前に預言したことが、見事に日本にも成就している。

「さまざまな偽装のもとに、イエズス会の会員たちは、**国政にまで手を伸ばし、国王の顧問の地位について、国家の政策をまとめた**。また、人々の様子を探るために、そのしもべとなった。彼らは、**王侯、貴族の子弟のための大学を設立し、一般の国民のための学校を建てた**」各時代の犬争闘上 293。

筆者も好奇心から上智大学の尋ねてみたことがある。門をくぐり右に回ると大きな「HIS」= イエズス会のロゴをみた。



日本国会議事堂に最も近く位置している上智大学と米国国会議事堂に最も近く位置しているジョージタウン大学。覚えているだろうか。オバマ大統領の時に、フランシスコ教皇が訪米した時のことを。副大統領はバイデン=イエズス会。米下院議長ペイナーは、熱心なカトリック。米国議会でフランシスコ教皇がメッセージを発した時、ペイナー下院議長は「私はこの時を20年間も待ちわびてきた」と議会で号泣した。何たる行為系。プロテスタントアメリカはここまでプロテスタントとしての良心をうしなってしまったのだ。この信じがたい変貌は、まさに黙示録13章の預言の成就である。

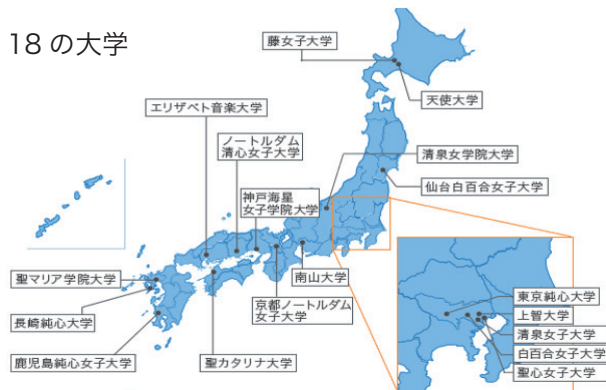


日米運命共同体

そして、日米運命共同体-「**アメリカ**」「**ジャメリカ**」として、中曽根総理とレーガン大統領が同盟を結んだ日本にあのフランシスコ教皇が来日したのである。

カトリック教育機関

カトリック連盟	
大学	18
短期大学	13
小・中・高校	148
幼稚園	513
計	692



カトリックの驚くべき魅力について

E.G. ホワイトは次のように言っている：

「多くのプロテスタントは、カトリックの宗教は魅力がなく、その礼拝は退屈で、無意味な儀式的くり返しであると思っている。この点彼らはまちがっている。ローマ・カトリック教は、偽りに基づいているとはいえ、粗野で見苦しい欺瞞ではない。カトリック教会の礼拝は、きわめて印象的な儀式である。その**豪華で荘厳な儀式**は、人々の感覚を魅了し、理性と良心の声を沈黙させるのである。目は魅せられる。**壮麗な教会堂、堂々たる行列、金色の祭壇、宝石**をちりばめた**聖遺物の箱、えりぬぎの絵画**、そして、**精巧な彫刻**などが、美を愛する心を魅了する。耳もまた恍惚とさせられる。その**音楽は絶妙無比**である。オルガンの豊かな音色が、聖歌隊の多くの歌声と相和して、大聖堂の高い円天井と円柱の立ち並ぶ通廊に響き渡り、人々の心に畏敬と尊崇の念を起こさずにはいないのである。

こうした外見上の壮麗さと虚飾と儀式は、罪に悩む魂の渴望を満たすように見せかけるものにすぎず、内面の腐敗を示すものである。キリストの宗教は、人々の受けをよくするためのそういった呼びものを必要としない。真のキリスト教は、十字架から輝く光に照らされて、実に純潔で美しく見えるので、その真価を高めるためのなんの外面的装飾も必要ではないのである。神が価値を認められるのは、聖潔の美であり、柔

和でおだやかな精神の美である。

すぐれた文体は、必ずしも純粋で高尚な思想を示すものではない。芸術上の高尚な観念、微妙に洗練された趣味は、現世的で肉欲的な心の中にもよくある。これらはしばしばサタンに用いられて、人々に、魂の必要を忘れさせ、将来と永遠の生命を見失わせ、無限の援助者であられる神から離れさせ、現世のためだけに生きるようにさせるのである。

形式的な宗教は、生まれ変わらない心にとって魅力がある。カトリック教会の礼拝の虚飾や儀式は、魅惑的な力を持っており、それによって**多くの者が欺かれる**。そして彼らはローマ教会をほんとうの天の門と見るようになる。その足を真理の土台の上に堅く置いて、その心を神のみ霊によって新たにする者でなければ、法王制の影響に耐えることはできない。キリストについての経験的知識を持っていない幾千の者は、力のない形だけの敬虔さを受け入れるようになる。そのような宗教こそ大衆が望むところのものなのである」大争闘下 322,323。

日本のカトリックの有名人：

たくさんいるが、ほんの少しばかり挙げてみる：



故吉田茂（外交官、政治家、第45代内閣総理大臣他を歴任）

緒方貞子（国際政治学者、元国連難民高等弁務官、元JICA理事長）

故石坂泰三財界総理・陰の総理、有吉佐和子（作家）、遠藤周作（作家）「沈黙」の著者、渡辺昇一（上智大学）、天野貞祐（哲学者、文部大臣）、有吉佐和子（作家）、犬養道子（評論家、犬養毅の孫）、曾野綾子（作家）、小林陽太郎（元富士ゼロックス会長）、田中耕太郎（商法・法哲学者、元文部大臣、第2代最高裁長官）、樋口廣太郎（アサヒビール社長）、細川 護熙元総理、現副総理フランシスコ麻生太郎

※ 遠藤周作の「沈黙」はキリシタンがどれほど幕府によって迫害されたかという面からみた、イエズス会を美化したものである。

「バチカンの国際陰謀」114 対日戦略

上記の教育機関以外に、病院が34、その他の施設

…布教は失敗したが、教育、医療活動、福祉事業などでかなりの成功をおさめている。またその布教戦略は上層部のエリートをつかむことである。日本のエリート層にカトリック信者が多いのだ」

「日本国内には969のカトリック教会、**765**の修道院があり、これらが42の医療施設、635の社会福祉施設、835の教育施設（ミッションスクール、**特別支援学校等**）を運営する（いずれも2017年12月）

イエズス会の歴史: 弾圧と復興

全世界を征服するために広がっていったイエズス会であったが、国の指導者たちによって嫌われ、弾圧、迫害に遭い、戦いの歴史でもあった。**イエズス会二面性を見抜き追放した国々が83**もあったという。参照：<https://nbakay.wordpress.com/2016/12/13/%E2%80%8Fkarenhudes-the-jesuits-have-been-kicked-out-of-more-than-83-countries/>

学校教育、学問研究は世界各国において進展していった。しかし18世紀末の反教会的嵐の中で**ポルトガル**（1759）、**フランス**（1764）、**スペイン領土**、**ナポリ**、**メキシコ**、**フィリピン**、（1767）、その他の国における同会の禁止と追放が断行された。**ロシア**、**ベルギー**、**オーストリア**、**ハンガリー**、**スイス**、**中国**、**日本**等々……。

法王教内でも追放される時があった。教皇クレメンス14世は、1773年にイエズス会を廃止した。



なぜか？ イエズス会の余計な手出しが法王に嫌われたからであった。教皇クレメンス13世に十分な政治的圧力が加かった。しかし、彼はそれについて何かしようとしたが、する前に亡くなった。イエズス会の廃止は、その後継者であるクレメント14世に委ねられた。クレメント14世がイエズス会命令を廃止する法令に署名したとき、彼は「私は私の死刑宣告に署名した…」と言った。彼はイエズス会によって毒殺されたと言われている。参照：<http://www.pickle-publishing.com/papers/triple-crown-clement-xiv.htm>

しかしながら、その抑圧は50年も続かなかった。民主的自由の光に対抗するために、法王制と独裁制が衰退する前に、かれらの有用な働きが求められ、**法王〔ピウス七世〕**は、神聖同盟の編成と同時に〔1815年〕、**イエズス会を復活させ、ふたたび全権を握らせた**のであった。

なぜ、豊臣秀吉、徳川家は日本からイエズス会を追放したか？

奴隷売買や植民地からの搾取はイエズス会主導で行われた一大事業だった。しかし、そのことに戦国大名は気付いていた。始めにそれに気付いたのが織田信長であり、彼らから火薬を得るための取引はしたが、何れは（火薬の原産地を手に入れたら）切るつもりだった。そして秀吉の中国への侵攻は、スペインやポルトガルから日本を守るための派兵であった。その手始めとして秀吉はキリシタンの弾圧を行う。その理由はキリシタン大名が日本の女性を奴隷として火薬と交換する取引（その結果 50 万人がヨーロッパに連れ去られた）を始めたからだ。

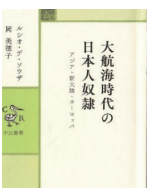
「南蛮人のもたらす珍奇な物産や新しい知識に誰よりも魅惑されていながら、実際の南蛮貿易が日本人の大量の奴隷化をもたらししている事実を目のあたりにして、**秀吉**は晴天の霹靂に見舞われたかのように怖れと怒りを抱く。秀吉の言動を伝える『九州御動座記』には当時の日本人奴隷の境遇が記録されているが、それは本書の本文でたどった黒人奴隷の境遇とまったく違って良いほど同等である。（中略）『バテレンどもは、諸宗を我邪宗に引き入れ、そのみならず日本人を数百男女によらず黒舟へ買い取り、手足に鉄の鎖を付けて舟底へ追い入れ、地獄の呵責にもすくれ（地獄の苦しみ以上に）、生きながらに皮をはぎ、只今世より畜生道有様』といった記述に、日本人奴隷貿易につきまとうた悲惨さの一端をうかがい知ることができる」

誰が売ったかといえば、それもまた日本人だった。『ブラジル史』でアンドウは「ポルトガルで奴隷として売られた日本人は、九州地方のキリシタン大名によって売られたものである」（六十三頁）と書く。



大友宗麟は、カトリックの極悪悪魔主義者たる宣教師と、ポルトガルの商人から、火薬の原料硝石を輸入するために、豊の国の神社仏閣を焼き払い、若い娘たちをドレイとして、売り払ったと。

秀吉が激怒した理由



その理由はキリシタン大名が日本の女性を奴隷として火薬と交換する取引（その結果 50 万人がヨーロッパに連れ去られた）を始めたからだ。

イエズス会士たちはそれから大名たちを扇動して何百という仏教寺院を破壊せしめ、さらに仏教の僧侶たちを虐殺させた。

ウィリアム・アダムスが、イエズス会士たちによつ

て殺害されようとするその寸前に、将軍家康はアダムスを助け出した。家康は十分な時間をかけてこの船員アダムスと会談し、アダムスの話を聞いた。そこで家康はイエズス会の歴史が血にまみれていることを知った。西インド諸島原住民皆殺し、そしてスペインにおける異端審問についても。その結果、この英国人は、異例の恩寵を与えられ、武士に取り立てられた。

将軍家康は、そこで、イエズス会および彼らが構築したトレント公会議によって指導されるローマ・カトリック教会首脳部と法王の政治的行動計画に対して反撃することにした。すなわち、『家康は、その治世の最初から、彼の帝国を組織し、統合するとともに、彼の権力を外国の陰謀家たちに適切に対抗できるように建設した。1606年、彼はキリスト教布教活動禁止令およびキリスト教徒棄教令を公布した。家康の言うキリスト教徒はこの場合、ヴォルテールの“その土地土着原住民の政府を打倒してそこに宗派的支配権を打ち立てることを合図とするローマの悪名高き陰謀システム”を意味する』



徳川将軍がこの事情を理解したので、家康、秀忠、家光はイエズス会士とその手先たち、スペイン人、ポルトガル人を追放した、プロテスタント派のオランダ人に 1854 年まで日本との貿易の独占権を与えた。1614年、家康は、彼の嫡子秀忠の名において、“キリスト教”を非合法化し、イエズス会を追放する法律を公布した。1622年、多数のイエズス会士が、国家反逆罪によって死に処せられた。

1624年、スペイン人、ローマ・カトリック教は、家光の命令によって禁止された。それはなぜか。

徳川家康は貿易継続。1600年に、豊後（今の大分県）に漂着した一隻の船があった。家康に助けられた、イギリスの**ウィリアム・アダムス**はプロテスタントであった。イエズス会の戦略について情報が与えられた家康は彼を外交顧問として仕えさせ、日本の女性と結婚させ、武士とされ、三浦按針となぜけられる。



三代将軍家光は、鎖国の制度を確定し、250年間にわたる江戸幕府の基礎を築いた。何回か鎖国令が出されたが、ついに（1639年）で断行した。

<https://iwahanjiro.exblog.jp/238051763/> より：

「イエズス会士ルイス・フロイスが編纂した『日本史』によると、秀吉はその際次のような要求をしたという。

- ・これまでにインドその他の遠隔地に売られていった日本人すべてを日本に返還するよう努力してもらいたい。
- ・もし、あまりにも距離があるため実行不可能な場合には、少なくとも現在の時点でポルトガル人が買い取ったためポルトガル人の所有になっている日本人奴隷を解放してもらいたい（自分はその費用を立て替える）。ルシオ・デ・ソウザの著書『16・17世紀の日本人奴隷貿易とその拡散』

ちなみに、二つの世界大戦の引き金を引いたのはイエズス会だと言われている。ヴロディミール・レドホフスキイエズス会総長(1915年-1942年)の時だった。

『バチカンの暗殺者たち』(エリック・ジョン・フェルプス著)より <http://d.hatena.ne.jp/rainbowring-abe/>

Avro Manhattan, The Vatican Moscow Washington Alliance, chick Publications, pp. 169, 170.

日本に「有利な立場」が築き上げられてきた、復興：

日本では、秀吉のバテレン追放令、徳川家光の鎖国令によってイエズス会は追放された。

しかし、教皇ピウス10世の命令によって、ザビエルの意志を継ぐべく1908年10月18日再渡来し、**上智大学**(1911)、**六甲学院**(1937)、**栄光学園**(1947)、**エリザベト音楽大学**(1948)、**広島学院**(1956)の創立その他の使徒的事業に活動が続いている。中国でも…中国のイエズス会受容の要因には、西欧科学技術・知識の吸収があった。

しかし、1800年代から、イエズス会を追放した国々は、再びイエズス会の働きによってほとんどの国々が国交を回復している。

1959年、独裁者・カストロ氏とオバマ米大統領はキューバとの**国交回復**を実現させたが、その際、仲介役になったのはローマ法王であった。

日本も戦国時代に徳川幕府は、鎖国令を出して徹底的にイエズス会を追放したが、手を変えてフリーメイソンの**ペリー提督**を送り、日本に1853年に開国を迫った。「日本にカトリック高等教育機関を」という教皇庁の求めによって明治期の終わりになって来日した。そしてこの令和の時代に異例の**イエズス会**フランシス



コ教皇を大歓迎し、フランシスコ・ザビエルの失敗を成功に変えた。 <https://okinawa-repeat.com/work-naha-perry/>

ペリー提督は、5回も琉球に来て各地を回っていた。

プロテスタント・アメリカもヨハネパウロ2世とレーガンが「聖なる同盟」を結んでイエズス会、あるいはカトリックの国に変貌した。約22% (約6950万人—カトリック)と申告されている。Wikipedia参照。

彼らは宣教、教育、福祉事業、病院等々によって包囲網を張って国を征服しているが、幾多の失敗もあったが、決してあきらめないのが、今日、復興のピークにあると言っても過言ではない。あの最強の国、自由の国と言われているアメリカを見よ。繰り返し、アメリカがほとんどカトリックあるいは、イエズス会に占領されていることを宣べてきた。そして日米運命共同体(アメリッポン、ジャメリカ)と言われている日本も現実を直視する時に来たのではないだろうか。彼らは「有利な立場」を築いたらどうするか、中世時代—暗黒時代のことを忘れてはならない。

日本指導者のバチカン関係

京都新聞 2009年6月26日

ローマ法王が麻生首相と初会談

7月バチカンで、米大統領とも【トリエステ(イタリア北部)25日共同】ローマ法王ベネディクト16世が来月7日、法王庁(バチカン)で**麻生太郎首相**と初会談することになった。在ローマ消息筋が24日明らかにした。日本の首相と法王との会談は、**1999年に小淵恵三元首相**と前法王ヨハネ・パウロ2世(いずれも故人)がバチカンで会って以来。…

麻生首相はカトリック教徒で、来月8日からイタリア中部ラクイラで始まる主要国(G8)首脳会議(サミット)を利用し、法王と会談することをかねて希望していたという。…日本とバチカンとの関係では、バチカンのマンベルティ外務局長(外相に相当)が3月、外務局長として初めて日本を訪問、中曽根弘文外相らと会談しており、トップ会談実現への期待が高まっている」。

日本とバチカン

ザビエルは、1549年に鹿児島に上陸して、2年3か月に渡り、「日本人は最も優秀で、理性的な国民である」と評価している。しかし、彼は日本を植民地化することに失敗して、日本を離れることになる。その後、派遣されてきたイエズス会宣教師たちは、日本における強力な戦略は、教育施設を全国に作ることでありとの使命をもってその事業に取り組むことになる。

フランシスコ教皇とは？

今年、訪日されたフランシスコ教皇は、アルゼンチンのブエノスアイレス教区の司教であり、教皇ヨハネ・パウロ二世によって枢機卿に任命されていた。2013年にコンクラーベで始めてイエズス会から教皇として選ばれた。覚えているだろうか？今まで、「イエズス会」は「法王=教皇」に仕える者として「ブラックポープ(黒い法王)」と言われていたのに、イエズス会+法王という構図になったのだ。

<https://ameblo.jp/bogih/entry-12366929131.html> より：

「金融を支配してきたロスチャイルドには大きな欠点があります。それは、外的でしかなくお金の魅力でしか引っ張ることができないことです。心の価値観まで変え、魂までも悪魔の支配下に置くことは出来ません。ところがそれを何百年に亘り行ってきた勢力があります。それがイエズス会です。

イエズス会は自分たちの本性を見抜き、抗議する目的で立ち上がったプロテスタント運動を潰す為に結成された軍隊組織です。

彼らは我欲にまみれ、キリスト教の仮面を被り世界征服を狙った軍事諜報組織でもあります。

イルミナティ、フリーメイソン、ビルダーバーグなど数々の秘密結社の頂点に立つのがローマカトリックの教皇権です。イエズス会は内面は我欲主義でありな

がら、表面ではキリスト教を『利用』しています。イエスの名を騙り、イエスの言葉で人間の魂まで捉え慈善事業を展開します。派遣された国々の国民に実に親切に接しながら、イエズス会の本当の目論見であるところの『この国を占領する』意図を決して察知されないよう、したたかに振る舞うのです。イエズス会が目指す世界征服とは、一般的な土地を侵略し領土を奪うことよりもっと深く相手の魂を操ることに重点を置いています。悪魔性を隠しながら、善なる宗教を用い、その熱心さに衝き動かされて教皇権の下に屈服させる手法をとります。イエズス会は世界中に宣教師を送り、その国々に基盤を築いてきました」。

「なぜどのようにして、大量の日本人奴隷が世界中に拡散してしまったのか」

天正15年6月(1587年7月)、秀吉は日本の中央政権として初めて正式なキリシタン禁令を発布するが、その直前にイエズス会日本準管区長ガスパル・コエリヨのもとに使者を送り詰問を突き付けた。その中に「何故にポルトガル人は多数の日本人を買い、奴隷としてその国に連れ行くか。」という内容が含まれていた。

これに対するコエリヨの回答は、「日本側の諸領主に対し禁止を勧告すべし。」というものだった。つまり、「奴隷を売る者(日本人)がいるから買う者(ポルトガル人)も出て来るのだから、日本の当局が奴隷を売ることを禁止すればよい。」とコエリヨは秀吉に反論したことになる。「対話録」でのミゲルの発言は、そのコエリヨの回答をそのままぞっているのである。

E.G. ホワイトの言葉を引用しよう：

「…世界は嵐と戦争と不和で満ちている。しかし一つの頭—ローマ法王権—の下で、人々は神の証人を装って、神に敵対するために一致するであろう。大いなる背教者によって、この連合は固められつつある。—最終時代の諸事件 767T 182 (1902年)

「神のみ言葉はこのさし迫った危険について警告を与えてきた。これが顧みられないならば、プロテスタントの世界は、ローマ教会の目的が実際に何であったかを知ったときには、もはや手遅れになってそのわなを逃れることができないであろう。ローマ教会は黙々としてその勢力をのばしつつある。その教えは議会に、教会に、また人々の心に影響を及ぼしている。法王制は堂々たる大建造物を築き上げているが、その奥まった部屋では昔の迫害がくり返されるであろう。自分が手を下す時が来たら自分自身の目的を押し進めるため

に、教会は、ひそかに、そしてあやしまれないように、勢力をのぼしつつある。この教会が何よりも望むものは、有利な立場である。そしてこれはすでに教会に与えられつつある。われわれはローマ教会の真の目的が何であるかをまもなく見、かつ感じるであろう。神のみ言葉を信じ、それに従う者はだれでも、そのことによって非難と迫害を受けるであろう」大争闘下 341。

「人々は法王制の真の性格、またこの教会が支配権を得たとき心配される危険に対して、目を閉じている。政治的また宗教的自由に対するこの最も危険な敵の進出に反対するように、人々は目ざめる必要がある」大争闘下 322。

日本も、アメリカのようにイエズス会によって占領されることになるのだろう。イエスは言われた。「にせ預言者を警戒せよ。彼らは、羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、その内側は強欲なおおかみである」マタイ 7:15。

フランチェスコ・ボルジア、第三イエズス会総長は言っている：

「私たちは小羊のようにやって来て、狼のように支配するであろう」



「歴史は繰り返す」！今度
はイエズス会ローマ法王教
は、全世界の支配をねらっ
ているのだ。「新世界秩序」
が構築されると全地の人々
は政治的また宗教的自由が
はく奪され、奴隷となるの
だ。日本も例外ではない。

「ローマは、王や支配階級のしつと心に訴えて、国民を奴隷として縛っておくように彼らを動かした。ローマはこうすれば国家が弱くなり、この方法で支配者と国民を両方ともローマの奴隷にしておけることをよく知っていた。ローマは、はるか将来を見通して、人間を思いのままに奴隷にするには心を束縛しなければならぬこと、また、彼らとその束縛からどうしても逃れることができないようにするには、自由を与えないようにしなければならぬことを知っていた。ローマの政策がひき起こした肉体的苦痛より幾千倍も恐ろしいことは、道徳的墮落であった。人々は聖書を奪われ、偏狭で利己的な教えを聞かせられ、無知と迷信に閉ざされていた。そして彼らは、悪習に陥り、全く自制ができなくなっていた」大争闘上 358。

「しかしこれらすべてのことの結果は、ローマが意図したものとは非常に異なったものであった。ローマの行なったことは、大衆を盲目的にローマの教義に服従させる代わりに、彼らを無神論者と革命論者にしてしまった。彼らはローマ・カトリック教を、僧侶の策略であるとして軽べつした。彼らは、聖職者たちを、彼らを圧迫するものの一部とみなした。彼らが知っている唯一の神は、ローマの神であった。またその教えが、彼らの唯一の宗教であった。彼らは、ローマの貪欲と残酷は、聖書が結ぶ当然の実であると考え、そのようなものはいらぬと思った。

ローマは、神の品性を誤って伝え、神の要求をゆがめていた。そこで人々は、聖書もその著者も、共に拒否してしまった。ローマは、聖書がそれを認めているかのように装いつつ、自分の教義に盲目的信仰を要求してきた。

その反動として、ボルテールと彼の仲間たちは、聖書を全面的に拒否し、至る所に不信の害毒を広めた。ローマは人々を弾圧し、苦しめてきた。そして今度は、墮落し狂暴になった大衆が、ローマの暴虐をはねのけて、すべての束縛を投げ捨てた。彼らは、自分たちが長い間尊敬を払ってきた華麗な詐欺に憤激して、真理と虚偽の両方を拒絶した。そして、放縦を自由と取り違えて、悪徳の奴隷たちは自由を得たものと思って狂喜した」大争闘下 358-360。

イエズス会の目的を我々は決して忘れてはならない。初代イエズス会総長に語ってもらおう：

「本会の全組織の主要動機は、全的服従の精神である。『服従の下に生きる者は、長上を通しての神の摂理のままに、動かされ、導かれるべきである、と各自は自らに言い聞かせよ。それはちょうど、彼らが、どこにでも運ばれ、どんな取り扱いでも受ける死体であるかのような、また、それを持つ人の意志のままにその人に奉仕する、老人のつえであるかのようなものである』と、聖イグナチウスは言った。“Concerning Jesuits,” edited by the Rev. John Gerard, S. J., and published in London, 1902, by the Catholic Truth Society.

ローマ・カトリックの政治、経済、宗教戦略は遠大なものである。

黙示録 13 章この刻印のない者はみな、物を買うことも売ることもしないようにした。この刻印は、その獣の名、または、その名の数字のことである。それについて述べるには紙面が足りない。

「同時にまた**無政府主義**が、いっさいの律法を、一神の律法だけでなく、人間の法律までも廃しようとしている。**富と権力の集中**、多数の者を犠牲にして**少数の者だけで富をにぎろうとする巨大な団結**、自分たちの利益と権利を守ろうとする**下層階級の団結**、**不安と暴動と流血の精神**、**フランス革命**をひきおこしたのと同じ**教えの世界的なひろがり**、一こうしたすべてのことが、フランスをゆり動かしたのと**同様の争乱に全世界をまきこむ**のに役立っている」教育 269-270。

イエズス会—ローマ・カトリックが憎んでいるものは？

「ローマ（イエズス会）は、**西欧プロテスタントとイスラム原理主義を憎んでいる**。かれらは、憲法で保障されている、**プロテスタント的自由を憎んでいる**」。

「バチカン、独立宣言を邪悪なものとして非難し、合衆国憲法を悪魔的文書と呼んだ。」—アプロ・マン

ハットン、ドルとバチカン 26 ページ、オーザーク出版、1988 年。

最後の戦いは、真の「自由」との戦いなのだ。「Society of Jesus= イエスの共同体、偽装イエス—反キリスト」対「小羊なるイエス・キリスト=神であり人となられた、真のイエス」との戦いで。真理と自由は命よりも尊いものである！

黙示録 17:14 彼らは小羊に戦いをいどんでくるが、小羊は、主の主、王の王であるから、彼らにうち勝つ。また、小羊と共にいる召された、選ばれた、忠実な者たちも、勝利を得る。

NEWS & STUDY

教育グローバル協定、 気候変動と日曜休業令の関係

花城 健

日曜休業令は密かに着実に準備が進められる

黙示録 13 章は、最終時代に日曜休業令が起こり、その法律に従わない者は、売り買いが禁じられるばかりでなく、殺されると預言しています。サタンは、神がご自分の被造物である人間からの礼拝を受けることを妨げ、代わりにその礼拝を自分が受けること、すなわち自分が一番尊敬される神になることを望んで（人は誰でも生来これと同じ精神を潜在意識に持っています。人は自力でこの問題から逃れることは出来ませ

ん。しかしイエス様はこの問題を人の協力を条件に解決する方法をお持ちです。その問題を解決後に、再び人間を栄光の天国に連れて行くために迎えに来られます。)、自分の一大傑作である法王制を用いて働きます。聖書と預言の霊は、日曜休業令の運動が密かに進められること、そして人々が法王制の狙いを知らずに協力することを繰り返し警告しておりました。そのいくつかを以下に紹介いたします。

日曜休業令の運動は、現在、暗やみの中で進んでいる。その指導者たちは、事の真相を隠しているので、運動に参加している多くの者が、底流はどちらへ向

かっているのかわからないでいるのである。口先は温和で、見かけはクリスチャンらしいが、日曜休業令がものを言うと、龍の精神を表す。—5 T452 (教会への勧告下巻 407 ページ)

プロテスタント主義は小羊のような角を持っているが、龍のように物を言うと、預言は示している。すでに我々は龍の声を聞き始めている。日曜運動を推進するサタン的な力が存在するが、それは隠されている。その働きに従事している人々ですら、彼らの運動に伴う結果については分かっていないのである。—スタディバイブル新約 584 ページ

プロテスタントが日曜日をあがめる運動において、ローマ教会の助けを受け入れようと企てる時、彼らは自分たちのしていることがわからないのである。—各時代の争闘・下巻 340 ページ

徐々に、最初はこっそりと静かに、そしてそれから勢力を増し、人心を支配するようになるにつれて、もつと公然と、「不法の秘密」はその欺瞞的冒瀆的な働きを進めていった。異教の習慣は、目につかないほど少しずつキリスト教会の中にはいつてきた。—各時代の争闘・上巻 43、44 ページ

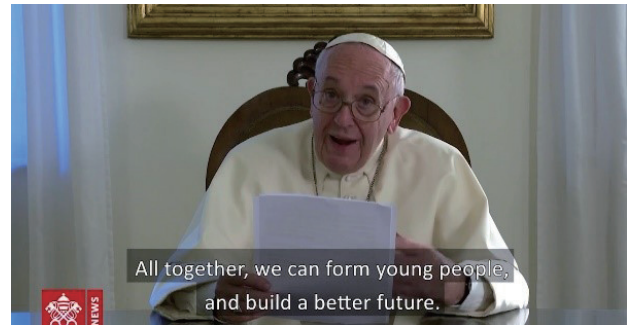
悪の力は、その勢力を結集し、強化している。最後の危機に対して、彼らは力を増強しているのである。間もなく、一大変化がこの世界に起ころうとしており、しかも最後の動きは急速である。—9T 11

ローマ教会は黙々としてその勢力をのぼしつつある。その教えは議会上、教会に、また人々の心に影響を及ぼしている。法王制は堂々たる大建造物を築き上げているが、その奥まった部屋では昔の迫害がくり返されるであろう。自分が手を下す時が来たら自分自身の目的を押し進めるために、教会は、ひそかに、そしてあやまれないように、勢力をのぼしつつある。この教会が何よりも望むものは、有利な立場である。そしてこれはすでに教会に与えられつつある。—各時代の争闘・下巻 341 ページ

神のみ言葉はこのさし迫った危険について警告を与えてきた。これが顧みられないならば、プロテスタントの世界は、ローマ教会の目的が実際に何であったかを知った時には、もはや手遅れになってそのわなを逃れることができないであろう。—各時代の争闘・下巻 341 ページ

教育グローバル協定

終わりの時が急速に近づいている兆しです。2019年9月12日、法王フランシスコは、パチカンニュースのビデオメッセージで、「教育に関するグローバル協定」(Global Compact on Education) の開催を発



法王フランシスコ、「教育に関するグローバル協定」の開催を発表

表しました。その中で法王は、2020年5月14日にローマで会議を開き、そこに「主要な宗教、国際機関、さまざまな人道機関の代表者、ならびに世界中から政治、経済、学界、著名なアスリート、科学者、社会学者の主要な人物」を招き、分裂を克服できる個人や自然環境を保護できる個人を教育することにより人類の未来を形作るための協定の調印式を行うことを発表しました。



このビデオメッセージはこちら(動画・日本語字幕): <https://www.youtube.com/watch?v=jz6xMVKIWTM&t=17s>

法王フランシスコのこのメッセージの全文は以下の通りです。

回廊ラウダート・シにある兄弟姉妹の皆様

私は皆様に、「私たちの共通の家」の保護に協力するよう懇請いたしました。私たちが直面している問題の緊急性を理解するために教育に集中する必要があります。教育は、現実をより広く、より深く理解する心を開きます。私たちは、「教育に関するグローバル協定」が必要です。この協定は新しい国際的連帯と新しい人文主義を開発することを目的としています。ですから、私はグローバルなイベントを推奨したいと思います。それは、2020年5月14日に開催されます。

大きな分断の時に、そして極度の対立の時に、私たちの努力を団結させなければなりません。教育上の同盟を結び、成熟した個人を形成するのです。社会の中や社会のために生きることが出来る人を育てるのです。すべての変革には教育プロセスが必要です。変革のための教育無くして変革を生み出すことは出来ません。アフリカのことわざには、「子どもを育てるには村全体が必要だ」とあります。まさに、私たちはそのような村を作らなければなりません。一緒になって、若者を形成し、より良い未来を築くことができます。

私が最近アブダビでアル＝アズハルのグランド・イ

マームと署名した文書で述べたように、まず、差別を排除する必要があります。私たちは、人々を結びつけるものは何かという認識や、人間のあらゆる側面に関する様々な認識を、この村が植え付ける方法を見つけなければなりません。人間のあらゆる側面とは、すなわち、知的、科学的、ビジネス的、慈善的側面における、研究や日常生活、世代、教師と生徒、家族、市民社会です。この村で、グローバルな集結が地球の住民と「共通の家」との同盟につながることを確認する必要があります。それにより教育が、平和と正義、人類家族のすべての人々の間に開かれた心、そして宗教間の対話をもたらします。

全世界村。それは、全ての人の属する個人的な村でもあります。私たちの教育プロセスは、全世界が深く相互に結びついているという認識に、そして経済、政治、成長、進歩を想像して他の方法を見つける必要があるという認識に根づいていなければなりません。私たちは、地域社会に奉仕する用意をしている個人を訓練する勇気が必要です。

この理由から、私はこの教育上の同盟と一緒に促進するために、皆様とローマでお会いできることを楽しみにしています。私は皆様と一緒にあって、未来の世代を教育するという繊細な分野にすでに従事している、私たちの世界の権威ある公人に訴えます。私は彼らが後退しないと確信しています。一緒に解決策を模索し、恐れることなく変化のプロセスに着手しましょう。私は皆様一人一人がこの同盟に専心することをお勧めいたします。

会議は2020年5月14日にローマで開催されます。皆様にお会いできるのを楽しみにしています。そして、すでに皆様を歓迎し、祝福しています。

ありがとうございます。

この記事では、このビデオメッセージの中の2つの文句に注目してみたいと思います。まず初めに冒頭の「回勅ラウダート・シにある兄弟姉妹の皆様」と言う文句、次に第3段落目の「私が最近アブダビでアル＝アズハルのグランド・イマームと署名した文書で述べたように、まず、差別を排除する必要があります」という文です。

「カトリック」の語源はギリシャ語の「katholikos」でその意味は、「普遍的な」であり、それは、「全世界的な」や「万人に共通の」と言う意味です。サタンは、法王制の協力を得て、災害や争いなどの万人に共通の問題を引き起こしながら、他方では法王制は、あたか

もこれらの諸問題を解決できる偉大な指導者のようにみせかけます。諸問題が大きければ大きいほど、それらを解決できる者に対する万人からの称賛、敬服心も大きくなります。「全地の人々は驚きおそれて(欽定訳:wonder=驚嘆して)、その獣(法王制)に従」(黙示録13:3)。

法王制は何を実現しようとしているのでしょうか。各時代の大争闘・下巻321、322頁に次のように書かれています。

「ローマ教会の計画や運営方式には遠大なものがある。この教会は、

- ①再び世界を支配するために、また
- ②迫害を復活させるために、また
- ③プロテスタントが行なったすべてのことを無効にするために、

激しい決定的な戦いの準備として、その感化力を広げ、その勢力を強めようと、あらゆる手段を用いている。カトリック教は至るところに地歩を占めつつある」。

このような遠大な計画を実現し得る法王制の能力について次のように述べられています。

ローマ教会の抜け目なさと狡猾さには驚くべきものがある。この教会は、何が起るかを読みとることができる。法王教は、プロテスタント教会が偽りの安息日を承認して忠順を表わしていることや、過去に法王教自身が用いたのと同じ手段で、プロテスタント教会がそれを強制する準備をしていることを見て、時機を待っている。—各時代の大争闘・下巻339ページ

ローマ・カトリック教会は全世界にわたって根を張り、法王庁の支配下にあつてその利害に役立つよう計画されている一大組織を形成している。全世界のあらゆる国において、聖餐にあずかる幾千万の者たちは、法王に対する忠誠を堅く保つように教えられている。国籍や政府がどうであろうと、彼らは教会の権威をほかのいっさいのものの上にあるものとみなさなければならない。彼らは国家に忠誠を誓うかもしれないが、その背後には、ローマに対する服従の誓約があつて、教会の利益に反する場合には、国家に対するどんな誓いも破つてもよいことになっている。—各時代の大争闘・下巻339ページ

プロテスタントが自分たちの目的の達成に夢中に

なっている間に、ローマ教会は、その権力を再び確立して、失われた至上権を回復することをねらっているのである。教会が国家の権力を用いたり、支配したりするような、また宗教上の制度が国家の法律によって強制されるような、すなわち、教会と国家の権威が良心を支配するような、そのような原則が米国にひとたび確立されるならば、この国におけるローマ教会の勝利は確実なものとなる。—各時代の争闘・下巻 340 ページ

「回勅ラウダート・シにある兄弟姉妹の皆様」

ではまず「回勅ラウダート・シにある兄弟姉妹の皆様」という文句の「回勅ラウダート・シ」という言葉について考えてみましょう。



回勅とはローマ教皇が全世界の司教や信者に宛てて出す公文書で、教皇が出す文書の中

では最も重要な文書です。「ラウダート・シ」は法王フランシスコが2013年の法王就任以来2番目の回勅で、2015年5月24日付で2015年6月18日正午に発表されました。フランシスコの最初の回勅は2013年の「ルーメン・フィデイ」（信仰の光）でしたが、これは殆ど前任者のベネディクト16世の著作でした。ですから「ラウダート・シ」は、フランシスコが全体を手掛けた彼の最初の回勅と見なされています。

法王フランシスコのロールモデル、アッシジの聖フランチェスコ



アッシジのフランチェスコ

回勅の表題である「ラウダート・シ」は、カトリック修道士、アッシジのフランチェスコ（イタリア語のフランシスコ）（1182年 - 1226年10月3日）の「太陽の賛歌」の中の言葉「ラウダート・シ、ミ・シニョーレ」（「私の主よ、あなたはたたえられますように」の意）から取られています。「ラウダート・シ」は「あなたはたたえられますように」という意味です。フランチェスコはこの賛歌の中で、太陽や月、星、風、水、大地など、神がつけられた全てのものを通して神を賛美しています。

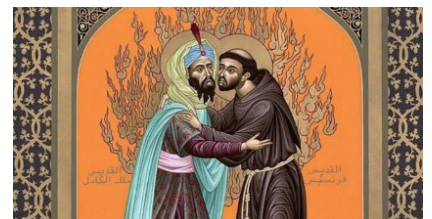
1972年公開のイタリア・イギリスの合作映画「ブラザー・サン シスター・ムーン」（Brother Sun Sister Moon）は、フランチェスコの半生を描いたもので、この映画の影響もあって、フランチェスコとは、自然を愛し、貧しい者や弱い者にも近いイエス様のような人物という見方が全世界に広がりました。

フランチェスコは、異端を服従させたり、罪人を譴責することではなく、ただ神を讃美し、小鳥やオオカミなど、神のあらゆる被造物を自分の兄弟姉妹のように愛し、福音を伝え、単純と謙虚の道を歩んだと言われています。彼は、ウサギ、セミ、キジ、ハト、ロバ、オオカミに話しかけて心がよく通じ合ったと信じられています。魚に説教を試み、オオカミを回心させた伝説が知られ、とくに小鳥に説教した話は有名です。以上のような事績から、法王ヨハネ・パウロ2世は、1979年11月29日、フランチェスコを「自然環境保護の聖人」に指定しました。アッシジのフランチェスコは法王フランシスコのロールモデルのような存在です。法王もまた、地球と貧しい人のために自然を保護するよう呼びかけています。



動画はこちら（動画・日本語字幕）：
https://www.youtube.com/watch?v=kKK8mjwQ_m0&t=2s

フランチェスコはまた平和を愛する人物としても有名です。キリスト教世界が十字軍の熱狂のただなかにあった時代に、フランチェスコは他



1219年、エジプト、フランチェスコとスルタン、アル＝マリク・アル＝カーミル

宗教との対話のため、武器を持たずに対立する人々の地域に入っていました。イスラム教徒に福音を伝えることを望み、1219年、エジプトに向かい、カイロの北方、ダミエッタで、スルタン（イスラム圏で、全イスラム教徒の最高指導者から特定地域における非宗教的な権力を委任された支配者の意）、アル＝マリク・アル＝カーミルと会見しました。スルタンはフランチェスコの人となりとその生き方に心を強く動かされ、彼の領土内を旅する許可と記念として角笛を贈りました。

2013年に法王ベネディクト16世が、598年ぶりの法王辞任を表明した後、アルゼンチン出身のホルヘ・マリオ・ベル



2013年3月13日、新法王フランシスコ選出、就任

ゴリオ枢機卿が後継者として選出された時、初めて「フランシスコ」を名乗る法王が誕生しました。この時代の法王のために、この名前は取っておかれていたかのようです。この新法王の就任は、最終時代にアッシジのフランチェスコのような、質素、謙遜で、貧しい人や自然環境を保護し、宗教間対話を完成し人類の分断を克服するグローバルな指導者が現れて、新世界秩序の構築に一躍を担うという、法王制が幾世紀もかけて密かに準備してきた計画が顕在化した瞬間でした。

法王フランシスコはまた、初めてのイエズス会出身の法王でもあります。「法王の精鋭部隊」と呼ばれていたイエズス会は、プロテスタント主義の全滅を期して1534年に設立されました。エレン・ホワイトは次のようにイエズス会の正体を説明しています。



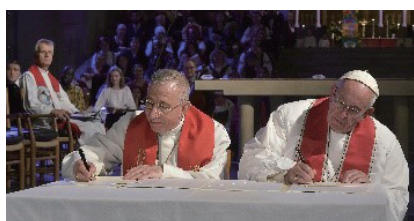
イスラム教徒の移住者の足を洗い接吻する法王

病人を訪問し接吻する法王

著名なプロテスタント代表団に囲まれる法王

「彼らは、一生の間貧困と質素な生活を送ることを誓ったが、その目的とするところは、……」

彼らは、会の会員として活動するときは聖衣をまとい、牢獄や病院を訪ねて病人や貧者に奉仕し、世俗を捨てたことを公言し、よい働きをしながら巡回されたイエスの清い名を帯びていた。しかし、この潔白な外観のかげに、しばしば、極悪非道な目的が隠されていた。目的は手段を正当化するというのが、会の基本原則であった。……イエズス会は、ヨーロッパに急速にひろがった。そして、彼らの行ったところは、どこでも法王権が勢力を回復した」（各時代の斗争・上巻 293、294）。



2016年10月31日、宗教改革500周年を記念してスウェーデンを訪問した際、フランシスコ教皇とルーテル世界連盟議長のエニク・ユナンは共同宣言に署名をした。

法王が選出された際、上智大学神学部の山岡三治教授は「ベルゴリオ枢機卿の出身地の中南米は最大の信者を抱え、**貧困問題**もあり、大国を近くで冷静に見て

いる。**環境問題**や**幼児虐待**で、科学や心理学などにも通じる彼は最適任者だ」と歓迎の意を表し、「**アッシジのフランチェスコは環境保護の聖人でもある**。新法王は、貧しさや自然を愛する基本に戻ろうとしているのではないか。その人格で信用をつかみ、新たな教会を築いて欲しい」と述べて、新法王への期待を表明しました。……

法王フランシスコの就任当時、新法王の3つの「初めて」が話題になりました。①「**自然環境保護の聖人**」と同じフランシスコという名、②**貧困問題**を抱える中南米出身、そして忘れてはならない、③**対抗宗教改革**のために創設されたイエズス会出身。あれから6年半経って現在、法王の事績を振り返ると、法王制は初めから**気候変動問題、貧困問題、人と人の分断の問題**を用いて、**全世界を統一する計画**を持っていたことが伺えます。そして、イエズス会が歴史の中で行ってきたことを知ると、これから再びどんなことが実行されていくのかをも予知することができます。

法王フランシスコは、就任して2年後の2015年に、回勅ラウダート・シを発表しました。その年、世俗の世界的組織も環境問題への対策のために大事な**世界的合意**（「持続可能な開発目標」と「パリ協定」）が結ばれることになっていました。法王フランシスコの就任時期は、初めからこれらの**国際的な環境問題対策の合意**とタイミングを合わせるために定められていたかのようにも見えます。

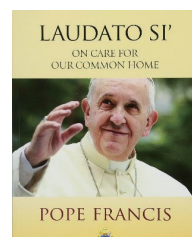
気候変動問題への取り組みに重要な年、2015年

パン・ギムン前国連事務総長は、2015年1月に「2015年は私たちにとって極めて重要な年になります。……今年、2030年に向けた意欲的な持続可能な開発目標を採択します。……2015年を世界を変える行動の時としよう！」と述べました。2015年は自然環境問題への取り組みにとって3つの世界的な動きがありました。

- ① 6月18日法王庁からラウダート・シが発表。
- ② 9月25日～27日国連で持続可能な開発目標が採択。
- ③ 12月12日COP21でパリ協定が採択。

回勅ラウダート・シ

まず、2015年6月18日に発表されたラウダート・シについてですが、これには正式な副タイトルがあります。「On Care for Our Common Home」です。これを直訳すると「私たちの共通の家のための保護について」で、日本語で出版された回勅の本には「ともに暮らす家を大切に」となっています。この回勅は、カトリック教会として初めての、**環境**



1. 宗教的な視点

ラウダート・シの大きな役割は、宗教的な視点から、環境危機について考えていることです。これまで、環境問題についての話し合いは、主に政治的、科学的、そして経済的な言葉で成されて来ました。しかし今、信仰の言葉が、躊躇なく、議論に用いられ始めています。

2. 貧しい人々への影響

文書の殆ど全てのページで、貧者への環境変動の不均衡な影響が強く目立っています。教皇は、気候変動の影響の多くの例を挙げて、発展途上国の人々が最も多くの影響を受けていると述べています。

3. 「技術政治主義的思考態度」を批判

教皇フランシスコは、科学技術が人類存続への鍵とする、技術政治主義的な考え方を標的とします。科学技術が世界にどのように影響するかを考えずに、いかなる科学技術をも取り入れる市場原理への依存を批判しています。それとは対照的に、キリスト教精神は、節度とわずかなものに満足する能力を特徴とする成長を表します。

4. 権威ある教え

環境に関する教皇の回勅には権限が無いと主張する者に対して、教皇フランシスコは、ラウダート・シは今、「教会の社会教説※」に加えられると述べています。資本と労働に関してのレオ 13 世の回勅レールム・ノヴァールムが 1891 年に発表されて以来、現代の問題に対する熟考は続きます。

※教会の社会教説とは、社会に生きる人間が直面するさまざまな問題—政治的、文化的、経済的、社会的な問題—をカトリック教会が取り上げ、教会の信仰と教義にてらしながら、それらの問題をどうとらえるべきか、また問題の解決に向かってどのように取り組むべきかを示したものです。

5. 教会／聖書の根源

生態学に関する議論は、聖書、そして教会の伝統に基づかせる事が出来ます。第 2 章において、教皇は創造の教えを紹介し、読者に呼び掛けて、創造物をケアするよう導きます。これは、人間が地を耕し保護するように創世記の時代から呼び掛けられていたことです。

6. すべてが連結している

ラウダート・シは問題に対する体系的な取り組み

方になっています。まず教皇は私たち全ての者を創造物につなげています。私たちは自然の一部であり、それに含まれているため、自然と常に相互作用しています。しかし、私たちの決定は環境に避けられない影響を及ぼします。疎外された貧しい人々の利益を脇に置く、お金の盲目的な追求と地球の破滅はつながっています。

7. 科学を取り入れる

教皇フランシスコは気候変動を証明しようとはしていません。むしろ、彼の回勅は、今日得られる最高の科学研究を受け入れ、それに基づいています。ラウダート・シは教会の教えとすべての分野からの現代の科学的発見の両方を利用して、現代の人々が重要な質問について考えるのを助けます。

8. 利己心と無関心を批判

教皇フランシスコは、気候変動の問題、特に貧しい人々に対する影響を無視する人々を批判しています。なぜこれほど多くの富裕層が貧しい人々から背を向けているのでしょうか？一部の人が自分自身を他の人よりも価値があると見なしているだけでなく、多くの場合、ビジネスを運営する人々はほとんどの場合、貧しい兄弟姉妹との実際の物理的なつながりがないまま貧しい人々から離れています。利己心はまた、共通善の概念の喪失につながります。

9. 世界的な対話と結束

多分、どの回勅よりも、教皇フランシスコは、アフリカ、アジア、ヨーロッパ、北・南アメリカでの司教会議の指摘事項を参照する世界中の人々の経験から集めています。教皇は、私たちの共通の家について、対話と討議をすることを全ての人々に呼び掛けています。

10. 環境的回心

この回勅は地球上のすべての人に向けられており、物事を見る新しい方法を求めています。教皇フランシスコの鮮明な表現のように、地球がますます巨大なゴミの山のように見え始めたとき、私たちは緊急の危機に直面します。それでもこの文書は、神が私たちと共におられるので、私たち全員が進路を変えようと努力できることを私たちに思い出させてくれると期待しています。私たちは、地球の叫びと貧しい人々の叫びに耳を傾けることのできる環境的回心に向かって進むことができます。

「持続可能な」(Sustainable : サステイナブル) という言葉

次に2015年9月25 - 27日の国連サミットで採択された、持続可能な開発目標 (SDGs) について考える前に、この「持続可能な」(Sustainable : サステイナブル) という言葉に注目します。「持続可能な」あるいは「サステイナブル」という言葉を最近日本でもよく耳にするようになりました。多くの方にとって、この言葉は、このままでは世界は行き詰まると感じさせられる諸問題を解決するための基本的な概念であると感じるかと思います。

持続可能であることが大切であるという考え方は昔からあったはずですが、近年的な意味での「サステナブル」という語句は、1972年にローマクラブが発表した「成長の限界」報告書の中で初めて用いられました。



アウレリオ・ペッチェイ (中央)

ローマクラブは、1968年にイタリアのオリベッティ社の副社長であったアウレリオ・ペッチェイ博士が、資源、人口、軍拡、環境破壊などの全地球的な問題に対処するため、発足しました。

世界各国の元国家元首の政治家、外交官、産業人、自然・社会学者、各種分野の学識経験者などを構成メンバーとするシンクタンクです。

「成長の限界」報告書は、1972年6月に、国連として最初の地球環境会議である国連人間環境会議が開催されるのに合わせて出た本です。これは、ローマクラブが、資源と地球の有限性に着目し、マサチューセッツ工科大学のデニス・メドウズを主査とする国際研究者チームに委託してまとめた研究で、「人口増加や環境汚染などの現在の傾向が続けば、100年以内に地球上の成長は限界に達する」と世界に警報を鳴らしました。

この証言から「サステイナブル」は、イエズス会が将来のビジョンを持って、1972年からすでに公表してきた言語であることが分かります。その後も「サステイナブル」の概念は国連で存続し、2015年には「持続可能な開発目標」(サステイナブル・デベロップメント・ゴールズ) が採択されることとなります。

持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals / SDGs <エス

ディー・ジェズ) と新法王就任のタイミング

MDGs



国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の前身であったミレニアム開発目標 (MDGs) は対象を開発途上国とし、貧困削減を掲げて、8つの目標が設定され、2015年を達成期限としていました。MDGsは2000年に採択された国連ミレニアム宣言と1990年代に開催された主要な国際会議・サミットで採択された国際開発目標を統合して一つの共通の枠組みとして2001年にまとめられた開発目標です。

MDGsの2015年の達成期限が近づいてきた2011年から次の開発目標についての準備が始まりました。以下にSDGs採択までの道のりと新法王フランシスコの就任とラウダート・シ発表のタイミングを一覧にしてみます。

【SDGs採択までの道のりとラウダート・シ発表との関係】	
2011年の初め	SDGsの概念が提唱されるようになった。
2012年6月	「SDGsに関する政府間協議プロセス、オープン・ワーキング・グループ」を設置。
2013年2-3月	2月28日ベネディクト16世の辞任、3月13日フランシスコが選出・就任。
2014年7月までに	SDGsの17の目標と169項目の達成基準が作成された。
2014年12月	パン・ギムン事務総長が統合報告書を発表。
2015年6月18日	ラウダート・シが発表される。
2015年9月25-27日	国連サミットでSDGsが採択される。

なぜベネディクト16世が598年ぶり法王を辞任したのでしょうか。それは、SDGsが採択される前に新法王フランシスコによってラウダート・シが発表されな

ければならなかったからなのでしょう？

次に2015年9月24日(「国連持続可能な開発サミット」の前日)に**法王が史上初めてアメリカ合衆国連邦議会上下両院合同会議に立ち、気候変動について演説した時の一部分を以下に紹介します。**

ところでそれを紹介する前に一つコメントいたします。アメリカと言う国はもともと宗教的な自由を求めてヨーロッパから新天地アメリカへ移住した清教徒たちの国でありました。1791年にアメリカ合衆国憲法修正第1条によって国教が禁止され、宗教の自由が保障されて、政教分離原則が存在している国です。メイフラワー号がアメリカへ到着してから約400年後に、カトリック教会の最高聖職者がアメリカの国会で大歓迎を受けて、政治家たちが、ある者は涙してその話に耳を傾けている様子は、筆者にとって不思議な光景でした。



法王の米国連邦議会訪問の様子はこちら(動画・英語): <https://www.youtube.com/watch?v=FOIG2dYc-sY>



2015年9月24日 法王、米国連邦議会上下両院合同会議での演説

ラウダート・シにおいて、私は、「道を変える」(61番)ための勇気と責任のある努力を求め、また人間の活動によって引き起こされた環境の悪化の重大な影響を避けるよう求めています。私たちが変化をもたらすことができると、私は確信しております。合衆国、そしてこの国会には、果たすべき重要な役割があることを確信しています。

そして翌日9月25日の午前9時、11時からSDGsを採択する国連総会が始まる前に、法王はオープニング・スピーチをして、**気候変動**について次のように述べました。



法王の国連訪問の様子はこちら(動画・英語): https://www.youtube.com/watch?v=fk_7V1yYrk0



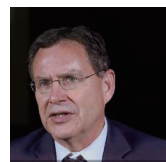
2015年9月25日 法王、持続可能な開発サミットでの演説

「本日発表される世界サミットの持続可能な発展に向けた2030年アジェンダの採択は重要な希望の兆しです。私は国連気候変動パリ会議でも基本的かつ有効な合意が

なされることを確信しています。厳粛な誓約は解決に向けた必要なステップではありますが、十分ではありません。以前にも述べた標準的な正義の定義にある通り、正義は必要要素のひとつであり、不変かつ永久の志です。私たちは全ての政府首脳陣に有効的、実際の、そして不変の志を持ち、具体的なステップを掲げ、自然環境を保護および発展させる早急な対策を取り、悪い結果をもたらす社会的かつ経済的疎外現象にできる限り早く終わりを告げてもらうことを望みます。

アメリカ合衆国連邦議会や国連総会において、法王が気候変動への対策について、具体的かつ早急な行動を求めていることが分かります。法王フランシスコが国際社会の今後15年間(2015年-2030年)で達成しなければならない持続可能な開発目標を採択する極めて重要な会議の基調講演を行うために、ベネディクト16世は598年ぶりの法王辞任を発表し、「自然環境保護の聖人」の志を持つ新法王フランシスコが就任したのではないのでしょうか。

アメリカ・カトリック大学、政策研究・カトリック研究所、所長ステファン・F・シネックは当時、法王の国連総会での演説について次のように高く評価して、法王の国連訪問の成功を語っています。



ステファン・F・シネック

教皇は、論点の全分野について考えるための枠組みを提供しています。中絶や宗教自由から気候変動や移民まで全てです。そしてその枠組みは率直に言って、魅力があります。これが彼の霊性の質なのです。

【MDGs と SDGs の比較】		
	MDGs	SDGs
採択年～達成期限年	2000-2015年	2015-2030年
目標数	8	17
対象	途上国	途上国 および先進国

SDGs

そして、2015年9月25-27日、ニューヨーク国連本部において「国連持続可能な開発サミット」が開催され、193の加盟国によって「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ(2030年までに達成する課題項目)」が全会一致で採択されました。

このアジェンダでは、「誰一人取り残さないー No one will be left behind」を理念として、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための重要な指針として、17のゴールが持続可能な開発目標(SDGs)として設定されました。保健、教育など、ミレニアム開発目標(MDGs)の残された課題に加え、この15年間に顕在化した都市、気候変動、

格差などの課題の解決を目指します。MDGs との違いは対象に途上国ばかりでなく先進国も含まれて国際社会全体の合意となったことです。ですから国連加盟国である日本もこれに合意しており、最近では政府や企業もこれを積極的に推進しています。

COP21 のパリ協定



2015年には、もう一つ大事な気候変動対策に関する国際的合意がありました。**第21回気候変動枠組条約締約国会議（COP21）**は、11月30日から12月12日の日程でパリ近郊の会場で開催されました。2020年で失効する京都議定書以降の新たな枠組みにおいて、全196か国が参加するパリ協定が採択されました。パリ協定の特徴を京都議定書と比較することによって次の表をご覧ください。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



岸田外務大臣

国家的取り組みとなっている
SDGs



河野外務大臣

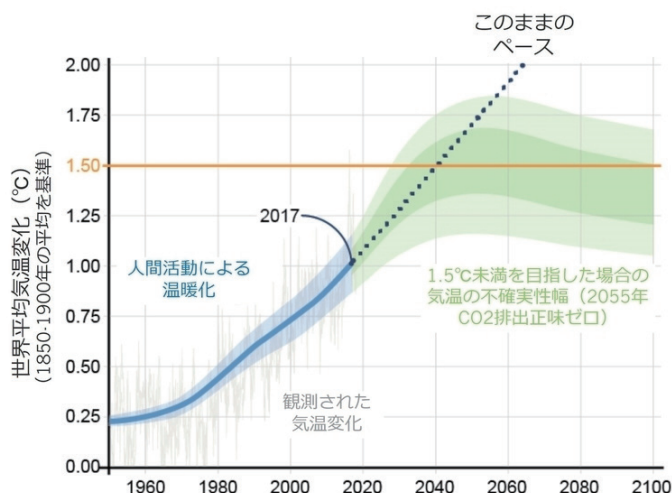


【京都議定書とパリ協定の比較】

国際会議	国際条約	採択日	大きなポイント
COP3	京都議定書	1997年12月11日	<ul style="list-style-type: none"> 京都議定書とは地球温暖化問題について初めて数値目標を設定した国際条約。 先進国のみに義務を課していた。
COP21	パリ協定	2015年12月12日	<ul style="list-style-type: none"> 京都議定書以降18年ぶりとなる、新たな気候変動に関する国際的枠組条約である。 2020年以降の温暖化対策について定めた国際的ルールである。 産業革命（18世紀半ばから19世紀）前の時代と比較して世界の平均気温上昇を2℃未満、できれば1.5℃未満に抑えようと言うもの。 国連の気候変動枠組条約に加盟する全196か国が全て加盟している。 各国が目標を決め 各自で努力する。

パリ協定では、世界平均気温は産業化以前に比べて、出来れば、1.5°C未満に抑えたいのですが、現時点で既に1.0°C上昇しており、このままのペースで気温上昇が続けば、2040年前後には1.5°Cに達してしまいます。

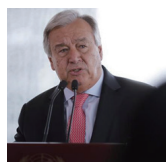
そこで、気温上昇を1.5°C未満に抑えるために、2015年のCOP21において、気候変動に関する国際連合枠組条約（UNFCCC）は、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）に対し工業化以前の水準から1.5°Cの気温上昇にかかる影響や関連する地球全体での温室効果ガス（GHG）排出経路に関する特別報告書を2018年に提供することを要請しました。



「パリ協定」から離脱すると発表するトランプ米大統領

そのIPCC1.5度特別報告書が提出される前に、アメリカでは、オバマ大統領からトランプ大統領に変わり、2017年6月1日、トランプ大統領は米国は地球温暖化対策の国際枠組み「パリ協定」から離脱すると発表しました。**パリ協定は全加盟国196か国**が参加を表明して、国際社会が一致していただけに、アメリカの不参加の表明は、世界の人々に衝撃を与えました。

しかし、取り組みの遅れはアメリカだけではなく、世界中の国にも当てはまる問題でした。2018年9月10日に行われた、気候変動に関するアントニオ・グテーレス国連事務総長の演説は、各国の温暖化対策の遅れに対して彼の焦りを表わすものでした。



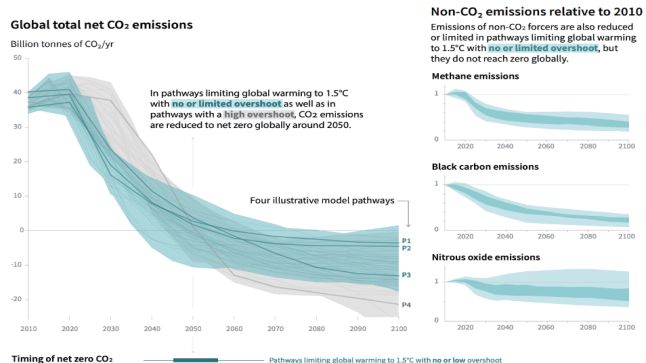
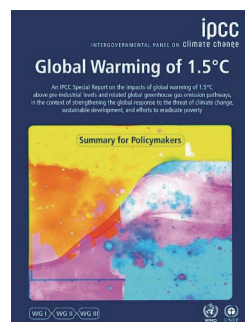
アントニオ・グテーレス国連事務総長

「しかし私たちにはパリ協定の後でさえも必要な行動を起こすリーダーシップと野心が欠けています。・・・科学者たちは何十年も前から繰り返しその危険を伝えてきました。あまりにも多くのリーダーたちがその声を聞こうとしませんでした。科学が求めるビジョンを持って行動した人々はあまりにも少なかったのです。私達にはその結果が見えています。科学者の最悪のシナリオに近づきつつある状況さえ見られます。（私達が2020年までに方針を変えなければ、野放しの気候変動を避けられる時点を過ぎてしまいます。）来年を機に取締役会や重役室、全世界の政府で大きな変革を決定していこうではありませんか。目標を高く持ち協力体制を作り上げリーダーに私たちの声を届けようではありませんか。もう無駄にできる時間はありません。」

IPCC1.5度特別報告書（SR1.5）

気候変動に関する政府間パネル(Intergovernmental

Panel on Climate Change : IPCC) は、国際的な専門家で作る、地球温暖化についての科学的な研究の収集、整理のための政府間機構です。2015年のCOP21において、気候変動に関する国際連合枠組条約（UNFCCC）からの要請を受け、2018年10月8日に特別報告書を発表しました。これは、IPCC1.5度特別報告書（SR1.5）と呼ばれています。その中で、地球温暖化を1.5°C以内に抑えるためには、社会のあらゆる側面で急速かつ広範な、これまでに例を見ない変化が必要だと述べられています。



1.5度と2度の場合の影響比較

	1.5度	2度
熱波に見舞われる世界人口(5年に1回の割合)	約14%	約37% (約17億人増加)
洪水リスクにさらされる世界人口	2倍	2.7倍
海面上昇(2100年まで)	26~77 cm	1.5度に比べてさらに10cm高い。影響を受ける人口は最大1千万人増加
生物種	昆虫の6%、植物の8%、脊椎動物の4%に影響	昆虫の18%、植物の16%、脊椎動物の8%に影響
サンゴ	生息域70~90%減少	生息域99%減少
北極(夏場の海水が消失する頻度)	100年に1度	少なくとも10年に1度
海洋の漁獲高の減少	-150万トン	-300万トン以上

出典: IPCC SR1.5 SPMよりWWFジャパン作成

報告書によると、地球温暖化を 1.5°C に食い止めるためには、土地、エネルギー、産業、建築、輸送、都市のそれぞれで「急速かつ広範な」移行が必要となります。全世界の人為的な二酸化炭素 (CO2) 排出量は、2030 年までに 2010 年の水準から約 45% 減少させ、2050 年頃に「正味ゼロ」を達成する必要があります。

「特に 1.5°C 以上の温暖化は、一部の生態系の損失などの長期的または取り返しのつかない変化に伴うリスクを高めるため、1 度 1 度の温度上昇が重大となる」とし、**2030 年が転換点**となり、その後は元に戻すことは不可能となる恐れがあることを報告しました。そして、「このレポートは、政策立案者と実務者に、地域の状況と人々のニーズを考慮しながら気候変動に取り組む意思決定を行うために必要な情報を提供します。次の数年はおそらく私たちの歴史の中で最も重要です」と警鐘を鳴らしました。

一目でわかる「IPCC 1.5度特別報告書」

- ・人間活動によって、産業革命前に比べて、すでに約1度上昇
- ・現在のペースで排出量が増加し続けると、2030～2052年の間に、1.5度に達する見込み
- ・1.5度の上昇で、現在よりもかなりの悪影響が予測される
- ・さらに1.5度と2度上昇の場合には、影響に相当程度の違い (robust difference) があり、1.5度の方が安全であることが明らかとなった。
- ・1.5度に抑えるには、世界の排出量を、2030年に—45% (2010年比)、2050年には実質ゼロにする必要がある (2度のためには、2030年に— 20% (2010年比)、2075年に実質ゼロ)
- ・パリ協定に提出されている現状の各国の目標では、3度の上昇が見込まれる
- ・1.5度に抑えることは可能だが、前例のないスケールで社会システムの移行が必要
 - ・2050年に再エネ70～85%、石炭ゼロなど

グレタ・トゥーンベリと世界的な「気候ストライキ」



2018 年 8 月からスウェーデンの当時 15 歳のグレタ・トゥーンベリは一人で学校を休んでスウェーデン議会の外で「気候のための学校ストライキ」と言う看板を掲げて抗議活動を始めました。その模様がソーシャルメディアで拡散すると、瞬く間に賛同者が加わり、彼らは「フライデー・フォー・フューチャー」(未来のための金曜日) の名で運動を組織しました。彼女はソーシャルメディアを通して世界中の学生にストライキに参加するよう促しました。4 か月後には、2 万人以上の学生が少なくとも 270 の都市でストライキを行いました。環境活動家としての知名度が上がり、国際的な場でも演説するために招待されるようになりました。2018 年 11 月のストックホルムで開催された TED、12 月の第 24 回気候変動枠組条約

締約国会議 (COP24)、2019 年 1 月の世界経済フォーラム (ダボス会議)、4 月の欧州議会などでスピーチをしました。ヨーロッパやアメリカの議会などでもスピーチをしました。

2019 年 3 月 15 日に 1 回目のグローバル気候ストライキが行われ、125 か国以上から 160 万人が参加しました。



そのためのプロモーションビデオはこちら (動画・日本語字幕) : <https://www.youtube.com/watch?v=CcD3SZ0DRVE>



2019 年 4 月 16 日、グレタ・トゥーンベリはローマで、法王フランシスに謁見しました。これはカトリック側の思惑でそうしたものと思われます。実際はカトリックが目立たないように世界的に主導しているグローバル気候ストライキをあたかもグレタ・トゥーンベリが世界的な主導者かのように見せかけるために、カトリックは、5 月 24 日に予定されているグローバル気候ストライキの参加を呼びかけるプラカードを彼女に持たせて、世界中にその写真と映像を配信しました。この謁見の直後に彼女は再びこのプラカードを持たされて予定されている 5 月 24 日はラウダート・シの記念日であることを説明し、参加を呼びかけている動画が配信されました。



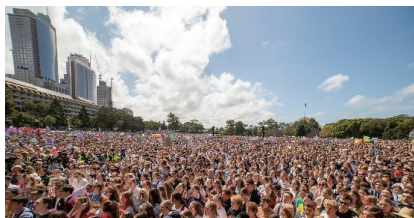
その動画はこちら (動画・日本語字幕) : https://www.youtube.com/watch?v=Xi_AVbsLJ9A

第2回目のグローバル気候ストライキは、2019年5月24日（ラウダート・シの作成記念日とされている）に行われ、125か国で1,600件を超えるイベントが2019年欧州議会選挙に合わせて開催されました。

その後グレタ・トゥーンベリは、9月に行われる2019年国連気候サミットに参加するため、CO2を大量に排出する飛行機に乗らず、モナコ公国の故グレース・ケリーの孫のピエール・カシラギが提供したゼロエミッションのヨットで15日間かけて4,800キロの大西洋を渡り、ニューヨークに無事到着しました。ピエール・カシラギはグレタの父と共に旅にも同行しました。



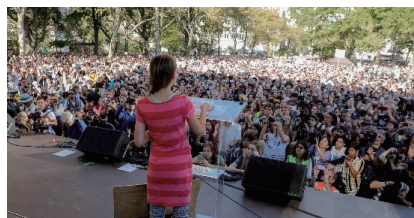
動画はこちら（動画・日本語字幕）：
<https://www.youtube.com/watch?v=2aFNL2Dt9ks>



2019年9月20日グローバル気候ストライキ シドニー



2019年9月20日
 グローバル気候ストライキ
 ニューヨーク



2019年9月20日グローバル気候ストライキ
 ニューヨーク

第3回目のグローバル気候ストライキは、2019年9月23日の国連気候変動サミットの前後の金曜日の9月20日（400万人参加）と9月27日（200万人参加）に行われました。



9/20 動画はこちら（動画・英語）：
<https://www.youtube.com/watch?v=ZWA5ENg3Gx8>

主催者側の発表では、9月20-27日の1週間で、世界で延べ760万人が参加、6135件のイベント、185か国、73の労働組合、3024の企業、820の団体、8583のウェブサイトが参加しました。アマゾン社やマイクロソフト社等の大企業の労働組合も参加し、アマゾンのCEOジェフ・ベゾスは2040年までに「CO2ゼロ」宣言。4回目のグローバル気候ストライキは2019

年11月29日に予定されています。これは、アッシジのフランチェスコが法王ヨハネ・パウロ2世によって「自然環境保護の聖人」に指定されたのが1979年11月29日だったので、その40周年を記念して定められた日です。カトリックが主導するグローバル気候ストライキは、「ラウダート・シ・ジェネレーション」という名で運動を組織していますが、これとは別に、カトリック色を出さない「グローバル気候ストライキ」（日本では「グローバル気候マーチ」という名）という名で全世界のネットワークは組織されています。「グローバル気候ストライキ」の時には、両サイトで登録した人々は同日に行動します。法王制は正義感に燃える、キリスト教、異宗教、無宗教の若者や大人を皆取り込んで自分の目的の達成にうまく利用しています。



2019年国連気候行動サミットに求められていたこと

国連の広報センターの2019年08月15日付の記事「この人に聞く：デアルバ特使、気候変動対策の強化と改善を世界に働きかけ」の中で、2019年気候行動サミット担当事務総長特使に任命されたルイス・アルフォンソ・デアルバ氏は、今回の気候行動サミットに参加する各国のリーダーたちに対する期待を次のように述べました。「私たちが直面する課題に取り組むためには、**非常に強い政治的意志が必要になります。しかし、私たちの現時点での取り組みと、2015年のパリ協定に基づく約束では、地球温暖化を1.5℃または2℃に抑えるという目標を達成することなどできません。**」



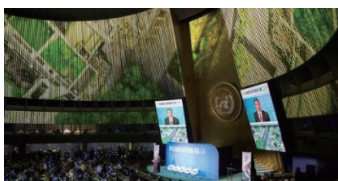
2019年気候行動サミット担当事務総長特使に任命されたルイス・アルフォンソ・デアルバ

またロイター通信によると、法王は、今回の国連気候行動サミット2019において、各国政府は「パリ協定の目標に従い、温室効果ガス排出量を可能な限り迅速にゼロにするた



めに、産業革命前のレベルで世界気温の平均上昇を摂氏 1.5 度に制限するための、**思い切った措置**を講じる政治的意思」を示す「責任」があると述べていました。

2019 年国連気候行動サミット



2019 年国連気候行動サミット

そしていよいよ、アメリカ・ニューヨークで 2019 年 9 月 23 日、国連気候行動サミットが開催されました。サミットでは、各国や企業などの代表が集まり、各自の取

り組みや解決策について議論しました。しかし、2020 年から CO2 排出について劇的な変化が求められているにもかかわらず、期待されていたような成果はありませんでした。

アントニオ・グテーレス国連事務総長は閉会スピーチで、「77 カ国が 2050 年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにするとの目標を捧げ、70 カ国が 2020 年までに国としての対策を強化させると表明した」と話しました。これらの 77 カ国に、炭素汚染大国である中国、アメリカ、インド、ロシア、日本は含まれていませんでした。



国連気候行動サミットでスピーチするグレタ・トゥーンベリ

サミットでは、**16 歳の環境活動家グレタ・トゥーンベリ**さんが「あなたたちが話しているのは、お金のことと、経済発展がいつまでも続くというおとぎ話ばかり。よくもまあそんなことができるものですね！(How dare you!)。もしあなたが私たちを裏切ることを選ぶなら、私は言います。「あなたたちを絶対に許さない」と。」とスピーチをし、気候危機に本気で取り組まない大人たちに怒りを露わにしました。



そのスピーチはこちら (動画・日本語字幕) : <https://www.youtube.com/watch?v=vtPnsHZdSA>

民衆の力

イギリス人ジャーナリスト、環境活動家ジョージ・モンビオットは、気候変動危機の打開策を呼びかけるビデオの中で、「自然を守る人に投票してください」と述べました。



動画はこちら (動画・日本語字幕) : https://www.youtube.com/watch?v=firMN_4tnBI&t=1s

2019 年 9 月 27 日、グレタ・トゥーンベリは、モントリオールで、カナダのトルドー首相と面会し、彼も他のリーダーと同様気候変動対策を十分に取っていないと述べました。その時トルドー首相は国政選挙運動中でしたので、もし彼が再選されるなら、20 億本の木を植えると公約しました。

title
Greta Thunberg meets Trudeau, tells him he's not doing enough to fight climate change



ideau announces promise to plant 2 billion trees if his government is re-elected

Seen Harris - CBC News - Posted: Sep 27, 2019 11:12 AM ET | Last Updated: September 28



グレタ・トゥーンベリとカナダのトルドー首相

グローバル気候ストライキに参加する若者には選挙権がないとか、子供に国の方針を任せることは出来ないと言う者もいますが、この若者たちが選挙権を得るのには、そんなに時間を要しないでしょう。預言の霊によると、民衆に押された政治家が日曜遵守令を制定することを説明しています。

そして自由の国アメリカにおいてさえ、為政者や議員たちは民衆の歓心を買うために、日曜日遵守を強制する法律を求める大衆の要求に屈服する。一各時代の
大争闘・下巻 357 ページ

聖書の安息日の擁護者に対して、「聖書はこう言っている」ということができないので、彼らは圧制的法令に訴えて、自分たちに欠けているものを補う。立法者たちは民衆の人気と支持を得るために、日曜休業令に屈服する。一国と指導者・下巻 209 ページ

労働組合は、この世界が始まって以来かつてなかったような悩みの時をこの地球にもたらす代理機関の一つである。一手紙 200、1903 年



労働組合と日曜休業令の動画はこちら (動画・日本語字幕) : <https://www.youtube.com/watch?v=l8SasU05m54>

またジョージ・モンビオットは、そのビデオの中で「自然を破壊することに資金を出すのを止め、手助けすることに資金を出す必要があります」とも述べました。

2019 年 9 月 23 日、国連気候行動サミットでは、前述したように、197 か国中、77 カ国だけが 2050 年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにするとの目標を捧げ、70 カ国だけが 2020 年までに国としての対策を強化させると表明しました。一見このサミットは不成功に終わってしまったかのように見えました。

しかし、今回のサミットでは、政府のみならず、企業や投資家たちも、存在感も発揮しました。世界の主要機関投資家 515 機関は 9 月 19 日、サミットに参加する各国政府に対し注文をつける共同宣言を行いました。参加した機関投資家の運用額は合計で 3,770 兆円というとてつもない金額です。機関投資家からの注文の内容は、パリ協定で各国が自主的に宣言した CO2 の削減目標が不十分なので、2020 年までに削減目標を引き上げること。また政府政策を全てパリ協定と整合性のあるような内容にすること。加えて、石炭火力発電を段階的に全廃し、さらに化石燃料の消費量を削減するための政策課税である炭素税を導入するという条件で、巨大マネーが動き出しました。

このサミットでは、投資家だけでなく、銀行からも巨大な宣言がありました。9 月 23 日には、銀行の融資が、環境や社会にどのような影響を与えているかを自主的に測定し公表していく「国連責任銀行原則」が発足し、なんと世界から 131 の銀行が自主的に署名しました。

この銀行 131 社のうち 35 社は 9 月 23 日、さらに踏み込んだ、新たな活動を始めました。活動の名は、「気候アクションに関する集团的コミットメント」です。この 35 社は今後、3 年以内に融資先企業での CO2 削減目標を、パリ協定と整合性のある形で策定することを義務化し、毎年の進捗公表も必須とします。

「気候非常事態」宣言



2009 年 6 月 13 日（地球の日（アースデイ））にオーストラリアのメルボルンで開催された「気候緊急集会」で気候非常事態宣言を要求するデモ行進

気候非常事態宣言 (Climate Emergency Declaration: CED) は、国や都市、地方政府などの行政機関が、気候変動への危機について非常事態宣言を行うことによって、気候変動へ政策立案、計画、キャンペーンなどの対応を優先的にとるものです。

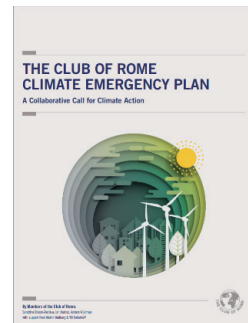
「気候非常事態」という用語は、2009 年 6 月 13 日にメルボルンで開催された「気候非常事態集会」のような気候変動に対する一連の抗議行動において 2009 年頃に作られました。

2016 年 12 月 5 日に、オーストラリアのメルボルンにあるデアビン市が、気候非常事態を宣言した世界で最初の行政機関となりました。2017 年 8 月、デアビン市は「気候変動非常事態プラン」において気候変

動への対応の項目リストを決定しました。

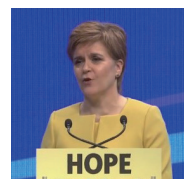
2018 年 12 月 4 日、ローマクラブは、欧州議会の前で地球温暖化を食い止めることを目的とした優先順位の高い 10 の措置を定めた「気候非常事態プラン」を発表しました。

2019 年から「グレタ・トゥーンベリ効果」によって、気候非常事態宣言を行う国家や市議会が激増しています。世界ではじめて宣言を行ったのは、2016 年 12 月の市議会で決議したオーストラリアのデアビン市。その後、2017 年にはオーストラリアとアメリカの 3 自治体が、2018 年には約 380 の自治体が宣言しました。19 年 5 月時点の宣言自治体数は、8 か国約 520 でした。しかしその数は毎日のように増えて、2019 年 11 月 12 日時点で、24 か国の 1185 の地方政府・自治体（住民総数約 2 億 8 千 967 万人 [世界人口の 3.76%]）が非常事態宣言をしています。



ローマクラブの気候非常事態プラン

2019 年 4 月 28 日、世界で初めての国家として、スコットランド政府の首相ニコラ・スタージョンは気候非常事態宣言を行いました。気候非常事態宣言をした国家は以下の 10 か国です。



スコットランドの首相ニコラ・スタージョン

1. スコットランド (2019 年 4 月 28 日)
2. イギリス (2019 年 5 月 1 日)
3. ジャージー (2019 年 5 月 2 日)
4. アイルランド共和国 (2019 年 5 月 9 日)
5. マン島 (2019 年 5 月 10 日 - 政府、2019 年 6 月 18 日 - 国会)
6. ホーリーシー (2019 年 6 月)
7. ポルトガル (2019 年 6 月 7 日 - 国会)
8. カナダ (2019 年 6 月 17 日)
9. フランス共和国 (2019 年 6 月 27 日)
10. アルゼンチン (2019 年 7 月 17 日)

日本ではまだ長崎県の壱岐市 (2019 年 9 月) と神奈川県鎌倉市 (2019 年 10 月) が宣言したばかりですが今後増えてくると思われます。

気候変動対策と日曜日休業令の関係



経済学者メナヘム・デ
イビット・スマッド
ジャ博士

気候変動対策について、経済学者メナヘム・デイビット・スマッド博士は、2018年1月29日のCEOワールド・マガジン誌の記事「休息の日についての妥当な提案」で次のような提案をしております。



記事全体はこちら（記事・英語）：<https://ceoworld.biz/2018/01/29/a-modest-proposal-for-a-day-of-rest/>

「…国際的な休みの日（年間で約53日）及びだいたい15日の祝日、すなわち累計でおよそ70日または1年の20%の生産活動の停止。この無活動の日が、2050年までに地球的な汚染の20%削減、地球規模の温暖化を2度未満に抑えるという、パリ気候会議（COP21）の目標を達成するのを助けるでしょう。私たち自身のため、工業や環境のための安息日は、これらの失敗に対する矯正手段です。…」

国際的な休みの日と言うのは、つまり日曜日のことです。日本は明治になってから日曜日を守るようになったようですが、国際的に日曜日が休みの日と言うのも偶然ではないでしょう。二酸化炭素を排出しないのために日曜日とその他の公休日に生産活動を停止すると言うことです。効果が期待できそうな方法です。犠牲を払ってでもやりましょうと言う民意が大多数となれば、民主主義国家であるならそうなるのが普通でしょう。



アレキサンドリア・オカシオ＝
コルテス下院議員

ニューヨークのイエズス会のフォードハム大学、神学部准教授、チャールズ・C・キャモシーは、2019年4月26日のリリジャス・ニュース・サービス誌の記事「法王フランシスコのラウダート・シ対グリーン・ニューディール」で、彼個人の意見として、気候変動対策として人々の文化を変えていく必要とその取り組みのタイムスケジュールを述べています。グリーン・ニューディールとは、2019年2月7日に米民主党が、アレクサンドリア・オカシオ＝コルテス連邦下院議員と、エド・マーキー連邦上院議員を中心に起草し、発表した下院決議案です。グリーン・ニューディール決議案は、今後10年以内に国内電源を風力発電や太陽光発電のような二酸化炭素排出量ゼロの再生可能エネルギーに100%切り替える

ことや、交通手段の近代化、製造業及び農業での二酸化炭素排出量削減、住宅及び建物のグリーンビルディング化、土地保全の拡大等を通じた気候変動政策を大きく掲げています。



チャールズ・C・キャモシー記事全体はこちら（記事・英語）：<https://religionnews.com/2019/04/26/pope-francis-laudato-si-v-the-green-new-deal/>

「前回のコラムで私は、教皇フランシスコの気候変動への取り組み方—文化に焦点を絞ったもの—は、最近浮上した、通過する可能性のない、グリーン・ニューディール政策のように速やかに法律を制定するような取り組み方よりはるかに優れていることを説明いたしました。

気候科学の専門家たちによると、劇的に炭素排出量を抑制するために私達に残された時間は12年です。その転換点の後には、気候変動は、不可避であるばかりでなく、破滅的となります。この非常事態を踏まえると、私たちは次の10年かそこらで、文化を変えることに取り組む必要があります、それから最後の数年間で、文化的そして政治的環境に関する劇的な法律制定をすることが私の意見です。

教皇フランシスコの心中の具体的な事は何でしょうか。それは具体的な行動を求める法律です。「文化の変化」、それは、名付けることも定義づけることも難しいことですが、実現のためには更に多くの取り組みと忍耐を要します。

環境的文化の変化のための教皇フランシスコの訓令は、2015年5月の回勅「ラウダート・シ」において、最高位のものとして現れました。この権威のある公文書において、教皇フランシスコは、「法規制が存在している」（ラウダート・シ211番）だけでは気候変動を生み出している人間の行動パターンに歯止めをかけるためには役立たないと述べています。法律が必要な長期的な効果をもたらすためには、「社会の構成員の大多数がそれを受け入れることに十分な意欲をもち、責任をとる者へと変わらなければなりません。」（ラウダート・シ211番）。

これは、彼の見解では、「心の底からの内なる回心」と彼が呼ぶものを要求します。時には彼はそれを、更に具体的に、「環境的回心」と呼んでいます。

このような改心は個人的また地域社会的の両方で行わなければならないと、教皇は述べています。しかし、それは生活の根本的变化でなければなりません。…

私たちはまた、安息日※を守ることに焦点を合わせ

ることによって、特に売り買いからの休みを祝わなければなりません」。

※ここでキャモージー教授は日曜日の事を安息日と呼んでいます。

キャモージー教授は、人々が日曜日にミサへ出席することも含めた新しい文化を持つべきであると述べているのでしょうか。法王は、教育グローバル協定で、世界のリーダーたちが「**全世界村**」の子供たちにこの新しい「文化」を教えることに将来発展する協定に署名させるのでしょうか？

気候変動運動が世界的なものとなり、米国から始まって日曜休業令が世界的なものとなる予言が成就する時が近い。日曜日の遵守が強制され、良心の自由がはく奪される危機に備えようではないか？

「この大欺瞞者サタンは、神に仕える者たちがこれらの災害を引き起こしているのだと、人々に説く。天

の神の不興を引き起こしてきた人たちは、すべての災いを、神の戒めに服従することによって絶えず違反者たちへの責となっている人たちのせいにする。日曜安息日を犯すことは神を怒らせることであり、この罪が災害をもたらすのであって、それは日曜日遵守がきびしく実施されねばやまない、と宣言される。また、第四条の要求を主張して日曜日尊重を傷つける者は民を悩ます者であって、神の恩寵とこの世における繁栄とを妨げている、と宣言される。このようにして、昔神のしもべに向けられた非難が、同じようにもっともらしい理由のもとにくり返される。...

為政者や議員たちは民衆の歓心を買うために、日曜日遵守を強制する法律を求める大衆の要求に屈服する。非常に大きな犠牲を払って得られた良心の自由は、もはや尊重されなくなる。まもなく起ころうとしている争闘において、われわれは預言者の言葉の成就を見るのである」大争闘下 353。



インターネットでも
ご覧になれます。

毎週の説教動画、セミナー等更新中。
無料書籍も閲覧可能です。

サンライズミニストリー 検索

Online Sermons



facebook

Sunrise Ministry | Facebook

<https://www.facebook.com/srsministry?ref=hl>

You Tube

Sunrise Ministry | Youtube Channel

<https://www.youtube.com/channel/UC.MrvUh7GCW2yGpWmYNSGxA>

訂正とお詫び

アンカー 62 号の 35 頁において訂正すべき箇所が 2 か所ありました。以下の通りです。

- ① 35 頁、左側の真ん中あたり「象徴的儀式においては…」の段落は大争闘下 221,222 からの引用ですがそれが抜けていました。
- ② 35 頁、左側の一番下の段落「婚姻は、キリストがみ国…」の段落も大争闘下 142,143 からの引用ですがそれが抜けていました。

読者の皆様に混乱とご不便をおかけして申し訳ございませんでした。今後ともアンカーのご支援、お祈りによるご協力をよろしくお願いたします。



創刊号 1988年2月発行
アンカーに寄せて / 自分で調べよ！ / 委ねられている使命
第2号 1988年8月発行
「完全」に対する不信 / 信徒からの声 / 人の性質 / 古代イスラエルと現代イスラエル / 神の信仰 / TV-現代の怪物 / 信仰から学ぶ教訓 / 重要でないことと重要なこと
第3号 1988年12月発行
1888年-勝利か敗北か？ / 信仰から学ぶ教訓 / アンカー堅固な土台 / 人の能力と才能 / 完全な品性に関する質問と反対 / 皆様に研究していただきたい宿題
第4号 1989年4月発行
キリストの性質 / 信仰から学ぶ教訓 / 人の創造 / レビ記にみる三天使の福音 / イエスの品性の美しさを仰ぎ見る / 1888年のメッセージとは何か
第5号 1990年3月発行
キリストの性質 / 信仰から学ぶ教訓 / 真理の宝石 / 瞑想 / 証の書の破訳 / 適訳 / 最も重要な働き - 親業 / 時兆 / 経済大恐慌は来るか？！ / 後の雨が今降っている？
第6号 1990年10月発行
最後のあがないの働き - 理解の重要性 / 聖所としての人間 / ビリー・グラハムと法王教 / クリスマスと努力 / 真理の宝石 / サムソン-SDAに何を教える？ / 質問：パプテスマ-人数増加について / 小食-過食-エジソン
第7号 1991年1月発行
選民を惑わさんと / ジニーン・ソートロン「夢と幻」 / 偽りの預言者、心の黙示 / パプテスマのヨハネとヘロデ
第8号 1991年6月発行
アドベンチストの最重要教理 / 破壊せよ、その基までも / 再臨信仰を破壊する企て / 生ける者のさばき / ダニエル 11章 - 「新しい世界秩序」への激動 / オーバス・デー-ローマ法王教のマフィア
第9号 1991年10月発行
イエスあるがままの真理 / しかし、暖かな愛、喜び、平和はなかった / ダニエル 11:40-45の研究 / 激動の嵐-最後の戦い / 宗教パワーと世界政治
第12号 1992年2月発行
セブンスターアドベンチストと踊り / 信仰と行い / 最後の戦い / ダニエル 11:40 / 宗教パワーの台頭 / 多教派を真似る
第13号
預言の書-雅歌の研究の重要性 / キリストの先在 / 宝石、装飾品類 / 研究-ダニエル書 11:40 / ヨーロッパ統合は成るか？ / 質問 1 ペテロ 3: 18-22
第14号
変革時代のアドベンチズム / アドベンチズム (再臨運動) の変化 / 異宗婚委員会への反論 / ユダヤ人はなぜイエスをメシヤとして拒んだか？ / 連載ダニエル 11:40-「終わりの時」
第15号 1994年12月発行
特集-聖書翻訳の流れ どの聖書を選べばよいか？ / 別冊：新共同訳に対する意見書
第16号 1995年6月発行
連発する諸事件の意味 / ヨシュア記のポイント / 聖書に対する闘争
第17号 1996年5月発行
新共同訳は「より良い聖書」か？
第18号 1996年8月発行
各時代のカインとアベル / 預言の霊より参考引用文
第19号
バチカンが進化論認める-その意味 / SDAにおける進化論の流行、風靡-その意味 / 6000年の地上歴史 / 背教のアルファとオメガ / 「1888年のメッセージ-信仰による義認」 グラム島セミナーに参加して
第20号
迫りくる戦い / 敵を知る / 時を知る / 備えを知る
第21号
天路歷程最終の道標 / キリスト再臨接近のしるし / ダニエル書研究の重要性 / マリアン・ベリー / ダニエル 12章の警告 / マリアン・ベリー
第22号
賢い者は悟るでしょう / タイムライン (時刻表) はどのように始まり終わるか？
第23号
アドベント (再臨) への望望は大失望になり得る！ / 紀元二千年コンピューター問題とクリスチャン品性の完成 / 法王、日曜休業令のための舞台装置をする！ / ライ病人村

第24号
警告無視の悲惨 / ダニエル 12章に関する議論 / 世界総会聖書研究所の論評に対するマリアン・ベリーの返答 / 1999年第一期の日本語安息日学校教訓について / 読者からの便り
第25号
西暦 2000年を迎えるにあたって / クリスマスに思う / 確かな天声-預言の声- / 真理の宝石
第26号
望望の聖書「スタディバイブル」 / 人間の像 / 二つの冠
第27号 2000年12月発行
クリスチャン品性の完成を信じる者は完全主義者か？ / ローマ・カトリックは変わったか？
第28号 2002年3月発行
星 (ひかり) に導かれて / ニューヨークテロ事件で見た恐怖と希望 / 鳥かごとイエスのあがない / 証
第29号 2002年12月発行
注目されるオリオン星座 / 上を見上げなさい / 十字架を掲げよ！ / アザゼルのやぎ / ふたたび神の宮となるために
第30号 2003年4月発行
紅海横断の真実-考古学が明かす驚くべき発見！ / 世界を湧かせる映画「ハリ・ポッター」 大衆を魅惑する現代心霊術！ / ただ師匠を見つめて / イエスを仰ぎつつ
第31号 2003年9月発行
どれが本当のシナイ山か？ / 隠れた世界最大のテロ集団とは？ / なぜ、私はセブンスターアドベンチスト改革教会に加わらないか？
第32号 2004年1月発行
灰の都市、ソドム・ゴモラの発見！ / 真の医事伝道に生きて (自然療法) / ついに動き出したアメリカ-国主義-20ドル紙幣の真相？
第33号 2004年8月発行
おとずれの時を知る / 小さな光と大きな光の意味 / 世界貿易センターの襲撃-その歴史は動いた / イエズスの狙い
第34号 2005年2月発行
海と大波のとどろき / 小さな光と大きな光 2部 / 礼拝と音楽 / 暗黒の勢力を打破する
第35号 2005年6月発行
新法王選出の意味 / 神の大時計 / 預言の研究と信仰 / 悪霊との戦い
第36号 2005年12月発行
終末のしるしの急カーブ / 十字架の勝利 / 品性の耐震強度 / 法王制の最終時代 / 黙示録の研究で覚えるべき重要なポイント
第37号 2006年6月発行
米国「十戒デー」 祝典の意味 / 預言の霊は現代医学の 100年も先端を行く / 新共同訳についての世界総会とのやり取り-そのいきさつ / バイナッブル・ストーリー
第38号 2006年12月発行
イエスを見失った SDA ? 見ざる、聞かざる、言わざる大真理 / 神の居住地-宣教師の散々の試練 / 証-翻って生きよ
第39号 2007年6月発行
聖書における女 Part1 / キリスト再臨の時を探る / 罪はどのように処理されるのか？ / 小石の波紋
第40号 2008年6月発行
デジタル社会の再臨信仰 / ああ、恵み、我にささ及べり / 神様の学校-権利の放棄 Part 2 / マザー・テレサ 40年間の信仰の危機
第41号 2008年12月発行
メガチャーチ (巨大教会) についての考察 / 天下分け目の大決戦！ / 七つの封印 / 王家の紋章
第42号 2009年1月発行
アメリカに変化「日の出」の時が来たか？！ / マタイ 5章 48節-完全について / 古代エジプト史におけるヨセフ
第43号 2009年6月発行
創造主の一大傑作-人間 / 世界総会におけるピアソン総理の最後の辞 / ゴスペルという名の策略 / イエズス会の日本戦略 / エディ婦人とジャックじいさん
第44号 2010年1月発行
荒らす憎むべきもの / 「各時代の争闘」にあっばれ！ / オバマ大統領と法王ベネディクト 16世の会見の意味 / 賢者への言葉 / 背教のオメガ
第45号 2010年7月発行
世界を操る真の黒幕 / 我が波乱万丈の人生 / 大なる像とは

何か？ / 2010年春のセミナー報告 / 私のチルダイを吹き飛ばして下さった神様
第46号 2011年1月発行
世界支配を狙う二大勢力 / 「終わりの時」の諸事件 / セブンスターアドベンチストの存在理由-最後の贖い- / 聖なる御言葉の歴史と移行 / ケログ博士の歴史「背教のアルファ」
第47号 2011年7月発行
立ち返れ日本！ 創造主に！ 東日本大震災？ 頻発する災害の意味！ / 「キリストとサタンの大争闘」のお薦め / 贖罪の犠牲と全能の仲保者の働き！ / 論点 / 「春の祈禱週読み物 (2011年)」を読んで感じたこと / 黙示録の研究 7つのラッパ / ジェレミーとラバたち / 銀細工師の物
第48号 2011年12月発行
クリスマス由来の由来 / カトリックへ、そして全世界へ / 新興教会 (エマージング・チャーチ) と霊性形成 (スピリチュアル・フォーメーション) / ささまざまな教会成長論の波 / 経済危機 / 意志？ 我々の選択、神の力 / 東日本の石が叫ぶ！ 大震災から学ぶ
第49号 2012年8月発行
近年の驚くべき考古学的発見！ / 信仰によって進む / 信仰による義認と第三天使の使命-第一部- / 一つの石もほかの石の上に残されず / あしあと / 他
第50号 2013年1月発行
グローバルズム / 人の子の時にも同様なことが起こるのである / 真の清め / 三天使の使命 第二部 / 罪深き独立
第51号 2013年7月発行
時のしるし / 新ローマ法王選出 / 大秦景教流行中国碑の真実 / 本能寺の変とイエズス会 / 日本人がキリスト教を受け入れにくくなった原因 / 我らの大祭司、諸王の王「イエス・キリスト」を仰げ！ / 当面している危機 / 平和をもたらす道 / 驚くべく、くすしく創られた / 神の愛によるいやし
第52号 2014年1月発行
聖書の預言とニュース / アメリカの常識の変貌 / 終末の兆し-預言のアウトライン / 生ける者のさばきと後の雨の関係 / 主の幕屋の中へ / 勝ち誇る真理
第53号 2014年8月発行
驚くべき預言の成就 / 罪の除去 / 愛なる神の罪の処理のしかた / 船は無事に目的地に着くか？ / ビル・ヒューズ牧師による講演のダイジェスト
第54号 2015年1月発行
大医師イエス / 聖書から見るエジプト考古学 / 終わりの時はいつ来るのか？ / 増し加わる光
第55号 2015年8月発行
立ち上がるトマス / エレン・ホワイトとヨハネ / E.G. ホワイトとは誰か？ / イスラムとカトリックのつながり / 女性技手札 / 個性の発達
第56号 2016年1月発行
第二次世界大戦 / 第三次世界大戦が始まった!? / 底いも知られぬ人の罪 / 御業完成の鐘 / 後の雨 / 大いなる叫びに含まれる経験 / 創造主の傑作 恐竜 !!
第57号 2016年7月発行
地震災害は何を意味するか？ / 巡礼者たちの煩悶 / 完全論へのつまずき / 日本三文豪の煩悶
第58号 2016年1月発行
トランプ米大統領誕生の意味 / 取り戻そう！ 健康長寿 沖縄 / 歩く運動の効用 / つむじ風を刈り取る / 讃美歌に見る「霊魂不滅思想」
第59号 2017年8月発行
良心の自由の危機か / ネルソンの貢献-日本国憲法 / ジグソーパズルから学ぶ教訓 / アドベンチズムの動揺
第60号 2018年1月発行
宗教改革 500周年 / 信仰による義認 / キリストは神か人か / セブンスターアドベンチストの中にも異教礼拝様式の侵入 / サンライズミニストリーの働き
第61号 2018年8月発行
キリストはいつから仲保者としての働きを開始したのか / 異邦人の時が満ちるとは / 偶像是神ではありません
第62号 2019年3月発行
2018年秋セミナーで学んだこと / デビッド・ゲイツ VS マーク・フィンレイ / 日曜休業令が出る前に起こるべきこと・奇跡の農場 / やがて花婿、来たたりたまわん！

サンライズミニストリーについて サンライズミニストリーは、沖縄県今帰仁村に位置し、書籍やメディア、セミナー等を通して現代の私たちに必要な使命を伝えるキリスト教伝道機関です。当機関では、永遠の福音社—EGPA (韓国) を通じて 2000 年に「スタディバイブル日本語版」を発行し、好評を頂いております。その他、聖書に導く書物、日常生活や健康に関する書物、賛美歌 CD やメッセージの CD・DVD を発行しております。混迷する世界情勢の中で、私達は確かな光を必要としています。聖書の預言の光だけが私達に希望を与えます。「主とその恵みの言葉」に錨を下ろして最後の時代を生き残り、主イエスの再臨に備えましょう。また無料小冊子も多数配布しております。

